京城日報
七日夕刊
本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金五拾五錢 …
廣告料 …
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

○支那參戰案形勢混沌

段總理は成る可く七日の衆議員に參戰案を提出せんとするもの、如し而して各議員の形勢は混沌として豫想す可からざるも段派民黨共に各勝利を打算し居れり段總理周圍の陰謀組は此の機會を利用して民黨派に大打擊を加へんとし形勢不利の場合は非常手段を決行せんと計企し居れり若し實現せば北京は容易ならざる事態に陷る可し段總理は無事通過を主眼とし極力議員間に運動中なり(北京特電)

○米國軍艦に退去通告

五日午前十一時膠鎭冰提督は米國總領事サンモンス氏及び米國支那艦隊司令長官イフク提督に對し米國軍艦は四十八時間內に支那領海を去る可し然らざれば之を抑留し乘組員の武裝を解除す可しとの通告を爲せり從て目下上海碇泊中のパロス、クロイス、モノカシー、ビラロボス、サマルの五艦は抑留せらる可くツイシントン、アバレンダ兩艦のみは六日支那海を去る筈なり(上海特電)

○前交通總長保釋

前交通總長許世英氏は五日夕刻保釋されたり(北京特電)

○米軍需品準備整ふ

米國の諸工場は命令一下直ちに軍需品製造に著手し得る準備成り小銃は英國式大砲は佛國式毒瓦斯液體火焔擲彈其他は獨逸式を習ふ可し而してエヂソン博士は專心潜航艇を研究す可し(紐育電報)

○英國海軍の大改革

英國海軍部內に注目す可き大改革進行中にて其內主なるものは參謀部の新設にして參謀部員中には艦隊勤務より拔擢されたる年少氣英の士官多く潜航艇部は殊に新勢力を加へ發明局も亦制度改正行はる可し(倫敦電報)

○波蘭に暴動

ワルソー及びロッヅレウ市に暴動起り市民の逮捕せらるゝ者多し形勢の變計る可からず(紐育電報)

○露外相對戰方針說明

假政府信任案可決

外相ミリューコフ氏は曩に駐外大公使に宛て通牒を發し露國の目的は獨逸を撲滅するにありとの宣言を發したるに對し露國民間に重大なる誤解を惹起し殊に該通牒中にて露國は決して單獨講和を爲さゞる可しとの宣言に對し贊否の聲頗る高きを見三日夜十時之に關し職工兵士の代表者が新內閣と聯合協議開催を要求し來れるに臨み其會議の休憩中會塲の露臺に現はれ群集に告げて曰く臨時政府は人民の信賴を有せずしては何等の行動を爲し得るものに非ず諸君乞ふ政府を信せよと喝采[illegible]に起り勞働者兵士代表者會議執行委員會は假政府信任案を可決せり(露都電報)

▲勞働者及軍隊代表者會議執行委員會は外務大臣ミリューコフ氏の通牒に關する新政府の說明を以て滿足す可きものとし十九對三十四の多數を以て承認したり(露都電報)

○露國戰鬪繼續承認

露都發電に依れば勞働者及び軍隊は五日外相に對し戰鬪繼續を承認せり(東京電報)

○露國革命後の初議會

露國議會は五月五日を以て開會す可く之れ革命以來の第一回目の議會なり(露都電報)

○露墺兩軍の休戰

露都に歸還せる兵士の談に依れば露墺兩軍は戰線に於て既に事實的休戰を爲せる個所ありと云ふ(露都電報)

○獨逸暴動蜂起眞相

アムステルダムの獨逸より歸來せる人々の報道に依れば國內數箇所に暴動起りマイチンヅにては千六百名の市民は商店を掠奪され窓を破壞し軍隊は群集に向け發砲し八名を即死せしめ五百名を捕縛したりマンハイムの爆彈工塲從業員は數日間同盟罷工を爲し今後麵麭の給與額を增加す可しとの保障を得て復業せり(紐育電報)

○獨逸外相更迭決定

獨逸外相は愈々更迭する事に決定し前駐米獨大使ベルンストルフ伯其後任たる可し(東京電報)

○地方官會議期

政府は五月二十七日を以て地方官會議を召集し會期を四日間となすに內定せり(東京電報)

○鐵道債券好況

鐵道債券は應募高三百萬圓を超過せり(東京電報)

○白水參謀長等著釜

白水參謀長、中村淸七郞、芳川寬治三氏は七日朝新羅丸にて著釜同十時半發列車にて京城へ向へり(釜山特電)

○間島視察團

北鮮巡視中の間島視察團は六日淸津を出發せり(淸津特電)

○大正五年米作實收高

作付反別百十五萬九千四百六十餘町步=其收穫總高一千二百五十三萬七千餘石=前年に比し一割二厘の增收

總督府にては大正五年米作實收高左の如く發表せり

大正五年の米作實收高は水稻一千二百四十三萬六千二百九十八石陸稻十萬七百三十六石合計一千二百五十三萬七千三十四石にして之を前年の實收高に比すれば百十六萬三千七十二石、即ち一割二厘の增收なりとす、蓋し大正五年は四月以降八九月に至るまで降雨頗る多く爲めに洪水の害を被りし地方少からざりしも全土を通じ用水潤澤なりしを以て例年用水不足の爲め作付不能なる塲所も廣く挿秧せられ作柄亦た良好なりしに依り未曾有の增收を示せり、今米作付反別及び收穫高累年對照表並に地方別米作付反別及び收穫高を示せば左の如し

米作付反別及收穫高累年對照表

年次	作付反別 (町)	收穫高 (石)
大正元年	[illegible]	[illegible]
大正二年	[illegible]	[illegible]
大正三年	[illegible]	[illegible]
大正四年	[illegible]	[illegible]
大正五年	[illegible]	[illegible]

米作付反別及收穫高地方別表

道名	作付反別 (町)	收穫高 (石)
京畿道	[illegible]	[illegible]
忠淸北道	[illegible]	[illegible]
忠淸南道	[illegible]	[illegible]
全羅北道	[illegible]	[illegible]
全羅南道	[illegible]	[illegible]
慶尙北道	[illegible]	[illegible]
慶尙南道	[illegible]	[illegible]
黃海道	九一、四七〇	八六九、三六八
平安南道	五三、六三二、七	四一四、五一七
平安北道	五三、四〇三、一	五三三、四八〇
江原道	五一、七〇八、七	四〇八、五三三
咸鏡南道	三三、七七七、八	三一一、六四八
咸鏡北道	四、五六七、八	三一、九四八
總計	一、一五九、四六〇、三	一二、五三七、〇三四

而して如上總作付反別並に收穫高を米種別に示せば粳米一、〇七〇、二九九町九反步、糯米七四、二八〇町九反步、陸米一四、九四九町九反步にして其の收穫高粳米一一、七一八、二八四[illegible]三八九石、陸米十萬七百三十一石其の一反步平均收穫高は粳米〇、九五、糯米〇、九六、陸米〇、六七四なりとす、尙ほ作付反別及び收穫高の增加は前記の如く主として用水潤澤且つ季候適順なりしに起因するものなれども唯だ忠淸南道に於ては土地調査の結果に基き耕地反別の統計を改訂したるに因り之に原因する作付反別及び收穫高の增加を含めり

◉宇佐美長官

消息

宇佐美內務部長官は六日間島より歸來七日翠平丸にて元山へ向け出發せり(淸津特電)

◉判檢事異動

五日附を以て左の通り辭令ありたり

京城地方法院長 岩本以明
補高等法院部長 三級俸下賜
光州地方法院長 前田信兆
補平壤地方法院長
公州地方法院長 花田銀太郎
補光州地方法院長
京城覆審法院部長 淺田賢介
補光州地方法院長
京城地方法院部長 塚原友太郎
補京城覆審法院部長
京城覆審法院判事 横田俊夫
補京城地方法院—
京城地方法院判事 伊藤淳吉
補京城—法院判事
京城覆審法院判事 永島雄藏
補京城地方法院判事
京城地方法院判事 切山篤太郎
補京城覆審法院判事
公州地方法院判事 堀々直吉
補京城地方法院判事

◉石塚總裁發期

東拓總裁石塚英藏氏は同社定時株主總會臨席のため來る十五日午前八時三十分南大門發列車にて淸水秘書役を隨へ東上する由なるが途中下關に下車十六日夜同地官民多數を招待し下の關新出張所の披露宴を開くべし尙ほ總裁の滯京期は特別議會に對する東拓改正案提出の如何並に形勢によりては長短あるべきが多分歸任は議會後ならん

◉鮮銀總裁行程

朝鮮銀行總裁美濃部俊吉氏は會計祕書役山本司事の兩氏を隨へ八日午前八時三十分南大門發列車にて西鮮方面に出張の事となったるが日程は八日午後七時二十分鎭南浦著同夜南浦官民多數を招待して披露宴を張り九日南浦市中視察午後七時二十分南浦發同九時平壤著一泊十日午後一時四十分平壤發同夜新義州著官民招待の披露宴十一日新義州安東縣南地視察夜は安東官民に對する披露宴十二日朝安東發午後七時三十分南大門驛著列車にて歸任すべしとの事なるが或は歸路兼二浦の視察も行ふべし

◉岸本大佐入京

久しく露都に滯在中なりし參謀本部課長陸軍大佐岸本鹿太郎氏は歸朝の途次七日朝入京巴城館に入り直に總督府に長谷川總督を訪問敬意を表せるが氏は兩三日滯京の筈

◉兒玉少佐動靜

岸本大佐と同じく歐洲よりの歸途入京せる陸軍參謀本部詰兒玉友雄氏は七日朝總督府に長谷川總督を訪問敬意を表せり

◉松平理事東上期

東拓總務部長理事松平直平子は株主總會列席のため十三日午後七時五十分發列車にて東上の途に就く由

◉中村技師出席

總督府技師中村彥氏は十二日木浦に開催の陸地棉栽培十週年記念祝賀會に出席を兼ね全南地方棉作狀況視察の爲七日附を以て同地に出張を命ぜられたり

◉頭本代議士動靜

六日夜入京の頭本代議士は七日午前十時三十分總督府に長谷川總督を訪問して會談數刻後各部長官荻田總務局長等を訪問し午後下仁渠港狀況視察八日朝出發元山視察歸京後三四日滯在歸東の豫定なり因みに荻田局長久水課長秋山參事官等の諸氏は七日午後七時より千代本に同氏の招宴を催ふしたり

◉東拓改正法案

東洋拓殖會社の營業區域擴張補給金並に其他を含める改正法案は久しく問題となり居れるが來る六月の特別議會に提出せらるゝや否やは未だ政府の意向確定し居らざる模樣なれど總督府當局にては之れが提案をなすべく準備中の如く諸種の形勢より觀るに其の提案及び議會の通過は可能なるものゝ如し

◉鮮銀幹部異動

庶務局長の新任あらん

朝鮮銀行にては故山田庶務局長逝去後缺員の儘なる庶務局長の新任並に既報の如く釜山新義州元山安東縣長春木浦各店長の異動を行ふ事となり近く其の發表をなすべきが庶務局長には多分現檢査局長中村光吉氏就任すべしと傳へらる

◉組合議員選擧名簿

從來京城府當局にて作成中なりし學校組合議員選擧有資格者名簿は住所無届者等多かりし爲め調製困難を極め居りしが遂に實地調査の結果有資格者と確定せるもの五千八百名の選擧名簿漸く出來したれば來る十日より三十日間每日午前八時より午後四時迄一般關係者の閲覽に供すべく尙此の名簿に對して異議あるものは一週間以內に當局に申出づれば審議調査する所あるべしと

◉地稅と督促狀

京城府第一期市街地稅の納期も已に經過したれば府稅務課にては六日先づ多額納稅者に對して督促狀を爲し一般納稅者に對しては十三日附を以て全部に督促狀を發布すべき豫定なれば未納者は此際至急納稅するを得策とすべし督促狀を發せらるれば如何なる額に對しても三十錢の督促手數料を徵せらるべし

◉軍隊會計檢査

京龍各部隊につき會計檢査施行中なる會計檢査院平塚檢査官は六日より十二日を以て終了すべく以後引續き左記日割により檢査を行ふべし▲十五日元山▲十九日淸津▲二日より二十六日迄羅南▲二十八日より三十日迄會寧▲六月三日四日咸興▲九日より十三日迄平壤

●京畿道幹部會議 京畿道にては恒例により七日午前十時より幹部會議を開き正午散會せり

◉兒玉少佐歡迎宴

兒玉少佐の知友たる關屋學務局長、秋山參事官、藤田參事官等は八日午後六時より入京中なる兒玉少佐を花月に招待し歡迎宴を催す由

◉紡織會社其後

出願中の朝鮮紡織會社發起人代表者柵瀨軍之佐氏は工塲豫定地實地調査の爲め技師一名を伴ひ八日木浦に來著すべく諸般の實査を了へたる後光州及び京城に向ひ親しく要路に陳情する處あるべく因に我木浦よりは松井副會頭中田書記長大田迄出迎へ沿線地方經濟狀況の說明を爲す筈(木浦)

◉大田支局披露宴

大田支局長横瀨新三郞氏著任披露宴は既報の如く去る五日午後六時より松島町あけぼのに於て開催したるが一同席定まるや先づ支局長横瀨新三郞氏の簡單なる著任挨拶を述べ次に本社より特に阿部社長代理として出張したる理事山崎猛氏の挨拶あり同地の紅裙連二十餘名酒間を斡旋し午後十時頃散會せり來會者は二十有餘名何れも同地の著名なる紳士紳商のみにして非常の盛會なりし

地方通信 ＝仁川＝

▲在鄉軍人分會總會 在鄉軍人仁川分會にては來る二十七日仁川高等女學校に於て總會を開く由▲燐寸會社發起人會 朝鮮燐寸會社にては數日來より大阪より來仁したる鬼頭、齋藤兩氏及び發起人等に於て設立に關する協議中なりしが大體の方針を略內定したるを以て八日更らに發起人會を開き具體的に諸般の準備を定むる由

地方通信 ＝大田＝

▲牛皮改良講習會 牛皮改良規定制定に基き忠南道廳の主催により來る六月一日より十七日間公州に於て牛皮改良講習會を開催する筈なるを以て各郡より當業者二三名を選定出席せしむべしと因みに講習科目は剝皮、乾皮及び梱包等なりと▲市街地稅實收成績 大田郡に於ける市街地稅徵集成績を聞くに調定額は一千五百九十四圓にして納期四月三十日迄に納付したるものは千四百六十五圓にして收入步合は約九割强なりと因みに本稅は去る大正三年より施行せられたる新稅にして各府共に成績不良なるも大田に於ける成績は非常に良好なりしと▲校舍の大修繕 既報の如く大田尋常高等小學校敎室は非常に狹隘を告げ居る際に當り同本校東の一棟の內四敎室は四月三十日突然西北方に向つて約八寸の傾斜をなし危險にして到底敎授を爲し能はざるより急に四敎室を他に移さゞるべからざるに到りたるも適當の敎室なきを以て差當り淨土宗大淨寺に一敎塲武德館に二敎室を移し一時の急を救ひ五月一日より修繕工事に着手したるが同校舍は今より八年前の建築に係り未だ腐朽と云ふべからざるも主として基礎工事の不完全と合掌の不完全に原因するものなるべしと

地方通信 ＝群山＝

▲府豫算認可 群山府大正六年度歲出入豫算は府協議會の決議を經て認可申請中の處今程認可の指令に接したるが豫算概要を見るに歲入經常部四萬五千七百三十三圓臨時部六千五百七十八圓計五萬二千三百十一圓にして歲出經常部三萬四千零三十三圓臨時部一萬八千二百七十八圓計五萬二千三百十一圓なり▲客月米檢 群山米穀檢査所取扱に係る四月中米穀檢査成績を聞くに優等米二千三百零七叺上格米二萬九千三百二十四叺下格米二千九百十八叺禁止米九百五十六叺なりしと▲米穀仕向別 四月中群山より各地に移出仕向られたる米穀數量は大阪三萬五千三百九十一叺神戶一千九百叺橫濱四百叺高知六百六十四叺東京一千六百六十叺博多二百叺仁川一萬二千零十一叺等なりしと

地方通信 ＝木浦＝

▲木浦驛と滯貨 當地海草業者は船腹不足の爲め取引上大困難を生じ一部鐵道に依らんと鐵道當局に交渉する處ありしも鮮鐵は今日迄の滯貨を一掃する爲め小荷物類の外は一切期日を定めての輸送を引受けず貨車不足の爲め輸送休止の姿にて當驛構內は海草類堆積し荷主は大恐慌を來たし居れり▲白米浦鹽輸送 當地木村精米所にて引受けたる露國行白米の內七千九百五十二袋は大阪より廻航したる臨時船共榮丸に二日積込み浦鹽へ出航せり▲四月魚市塲水揚高 四月中の水揚高は一萬一千六百九十四圓八十一錢にして入舟數七百九十一隻入荷數百〇五個なるが昨年同期に比し水揚高三千八百餘圓入舟數に於て百艘の增加を示せり之が原因は近海漸く漁期に入りつゝ鮮人漁業家の增加せるによると因に魚類はチヌ、タイ、ベンコタイ其他なりと▲屠獸及び搾乳高 四月中當府に於ける屠獸數は牡牛廿五、牝牛六、計卅一頭、豚十二頭にして牛乳搾取高は七石三斗三升なりと▲對抗庭球競技會 當地光州庭球對抗競技會擧行の事愈々決定來る二十日木浦小學校々庭に於て開催すと定めて盛觀を呈すべし▲大黑山島捕鯨終了 大黑山島の捕鯨は四月三十日を以て本年の漁期を終れるが今初漁以來の成績を聞くに捕鯨數八十八頭に達し金額實に十八萬圓なりと

地方通信 ＝大邱＝

▲第二尋常校認可 大邱公立第二尋常小學校新設の件は豫て其筋に對し認可申請中のところ此程愈々認可に接したり▲大邱局客月收入 大邱局客月中に於ける印紙通信收入を見るに前年同期に比し四千二十六圓六錢二厘の增加即ち印紙收入一萬五百八十八圓二錢通信收入一萬六千五百六十八圓九十二錢五厘に達し居れり▲輕鐵期成運動 慶北金泉尙州間輕便鐵道布設運動開始に就き同地に於ける主なる有志者は數次懇親會を兼ね集合協議の結果愈々內部の結束を堅むるに至れるが更に五日尙州小學校に在留民大會を催せる後同盟會を組織し其筋の認可を經て直ちに運動を開始すべしと▲松本軍醫正昇任 大邱慈惠醫院長陸軍二等軍醫正松本繁正氏は這回陸軍一等軍醫正に昇進せらる▲中參與官出張 慶北參與官中鍋臟氏は六日迎日郡浦項に出張したり▲佛敎講演開催 臨濟宗永源寺派管長蘆津實全老師は八日著邱の上同夜午後七時より大邱上町在鄉軍人集會所に於て佛敎講演會を催すべしと

人事消息

▲高橋武夫氏(鮮銀上海出張員) 浦鹽南滿支那方面を視察して大連より上海に歸任すべく七日午前元山に向ひ出發
▲木原小平氏(浦鹽松田銀行新支配人) 七日午前南大門驛發元山經由赴任の途に就く
▲今井八十次氏(鮮銀全州出張所主任) 同上
▲伊藤信郞氏(同統營出張所主任) 同上
▲白鳥龍助氏(元東拓參事) 歸京中の處京城府黃金町三丁目四十三番地に卜居商業及び金融業經營
▲岡本至德氏(咸興地方法院檢事正) 七日附間島に出張を命ぜらる
▲吾孫子勝氏(京城專修學校長) 同日附東京へ出張の筈
▲松岡直弘氏(麴酒業) 七日朝入京天眞樓へ
▲中村精七郞氏(麴酒業) 七日夜入京天眞樓へ
▲佐野秀之助氏(九州明治專門學校校長) 同朝鮮ホテルへ
▲筱原定氏(咸興憲兵隊中尉) 七日朝退京
▲藤山雷太氏(日本製糖會社々長) 同本樓へ
▲三浦末喜氏(辯護士) 五日夜元山より歸京

(行南) 線　(行北)　(行南)　線　支線 寺洞 … [illegible]

李王咸興本宮御參拜

愈九日朝御出發＝往復一週間の豫定＝永興より自動車十八臺を聯て

李王殿下には咸興本宮參拜の爲四月下旬出發の筈なりし處宿痾を發せられたるを以て出發御見合中なりしが

▲此の頃全快 せられしを以て愈九日午前八時南大門驛發李堈公殿下御同行咸興に赴かるゝ事となりたり日程は九日午前八時南大門驛臨時列車に搭乘出發同日元山著一泊十日午前八時元山發永興より自動車にて正午咸興著十一日本宮並に定和陵參拜十二日

▲咸興御滯在 十三日咸興發元山を經て釋王寺著十四日釋王寺滯在十五日午前八時釋王寺發同日午後御歸京の豫定なり隨員は閔長官、國分次官、尹贊侍外二名李副將外武官二名武藤事務官外事務官二名内人五名典祀五名黃警視外警衛巡査十名李堈公隨員二名其他合計

▲六十餘名の 外に李載完侯李完用伯李子爵趙男爵等の貴族も隨行する筈なり列車は臨時列車にて祭器、祭物、輿及び自動車十八臺を用意し行くべしとの事なり

朝鮮に禪を活用したい

蘆津實全禪師と朝鮮僧侶の接見

蘆津永源寺派管長の鮮僧接見會は七日午前十時から長沙洞の妙心寺別院に開かれた、蘆津老師は後藤瑞巖、森凶宗徳両師侍坐の上岡部本社長の紹介中村府日監事の通譯で覺皇寺布教師金擎雲、同松相老、中央學林學監金寶輪、同教員朴漢永、佛教擁護會幹事李能和氏外三名に接見し

□徐ろに口を 開いて『山僧は今度滿鮮巡錫の途次當山に立寄つた處が諸大徳と接見の機會を得たのは誠に快事である、著京すると同時に長谷川總督及び山縣政務總監に御目に掛つて色々と朝鮮の佛教に就て御話をしたのであるが日韓合邦の今日我佛教も内地と朝鮮と

□互に歩調を 一致して之が舉揚に勉めたい殊に朝鮮の佛教は凡て禪宗であると云ふことを聞いて居るが既往はどうでもよい今後此禪を大に活用する事にしたい、能く佛海には入るべし、魔海には入るべからずと云ふことがあるが是れではいかぬ大に此の魔海に入つて衆生濟度をせねば活きた禪とは云はれない

□魔海などは 我々の入る處ではないと深山幽谷に引込んで居るやうでは役に立たぬ大にこの世の中を縦横無盡に奔走して社會の爲め國の爲めに盡さなければならぬ朝鮮の禪は明から傳へたと思つて居る、支那で禪の最も盛んであつたのは

□唐宋の時代 で元より以降はだん／＼衰へて明に至つては全く滅たと云つてもよい明の指空大師であつたか念佛と禪とをこね交ぜた様な禪をやつたこともある、内地に於ても三百年ばかり前は非常に衰へて支那と餘り變らなくなつて居つた時に白隱禪師と云ふ人が出て色々の弊を除いて禪堂を起して大に臨濟禪の舉揚に務めた結果

□再び隆盛を 極むるに至つた今や日韓合邦も行はれて一國となつたのであるから大に歩調を一にして朝鮮に於ける臨濟禪の復興を圖りたいものだ、就ては朝鮮の青年の僧侶は大に内地の禪堂に入つて十年十五年の間辛抱して嚴峻なる師家の鉗鎚の下に充分の鍛錬を經ることが尤も肝要であらうと思ふ云々』と一場の垂敎をなし

□朝鮮の禪宗 は臨濟宗なりや曹洞宗なりやと問ひ朴漢永和尚は『朝鮮の佛教は全部臨濟宗にして曹洞宗は一切なし』と答へ更に『朝鮮には禪教兩宗と云て居るが禪が主であるか教が主であるか』の間に朴漢永は『寺に一定の制度がある譯でなく各自思ひ／＼に或は禪、或は教、或は念佛と云ふやうにして居る』と答へ更に老師の『禪を修むるに

□禪堂の設け ありや又公案を如何に拈提するや』の問に對し『一の禪堂あり二三十名乃至五十名位の僧侶が坐禪をして居る又公案は千七百則の内の一つを持つて二十年三十年と研究して見性成佛をするのである』と答へ終りに蘆津老師は内鮮の僧侶が歩調を一致して臨濟禪の舉揚を懇々と垂敎し

□正午接見を 終つた此の接見に於て老師が常に春風の如き態度を以て至極謹肅に應接せるに對し鮮僧の服裝の不揃なこと、鮮僧として尤も大切な行儀の惡い落ち付のないこと言葉の先に小理屈の多いことなど記者は彼我の對照を見て朝鮮佛教の爲に轉た長歎を禁じ得なかつた

◇長谷川總督と西洋葱

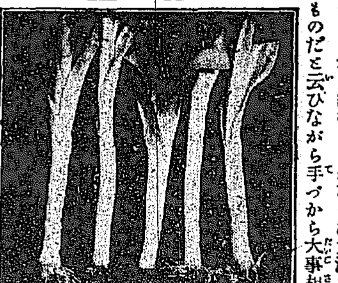
□光榮ある獻上品の候□

□補かも知れぬとの噂□

◇六日本社主催の野遊會で賑はつた纛島には午後二時頃長谷川總督の自動車が來て遊覧者一同の敬禮をうけた

◇その時總督は模範場の其處此處を見廻られた末『白菜の極上等は無いか』とか『よい野菜はないか』とか熱心に野菜の品定めに歩かれた

◇しかし生憎にも恰度野菜の品切時分で平素のやうに美事なものが無かつたが折柄非常に美事な西洋葱があつたを幸ひ總督はこれならば立派なものだと云ひながら手づから大事相



に數株を持つて歸られた

◇總督と西洋葱、何になさるゝのだらうと不審がる者もあつたが折柄の下馬評によればそれは總督から提きあたり／＼獻上されるものだとかの噂であつた

◇曾て本紙にも記した通 至尊陛下には殊に植民地の事に大御心をそゝがせられる難有き思召により長谷川總督の許へは時々朝鮮の野菜をとの御諚が下されるとのことである

◇それで總督も始終珍らしい品をと心掛けてゐられるから昨日の西洋葱も乾度光榮ある獻上品の候補であるかも知れぬといふことであつた

花盛りに積雪二寸餘

平南陽徳郡地方の谷川結氷す

平南にては本月に入りて以來雨勝ちにて氣温著しく降下せるが孟山郡地方は三日の朝來降雪あり積雪二寸餘に及び見渡す限り白皚たる中に桃杏の紅や楊柳の緑の彩れるも美しく又陽徳郡地方にては五日の氣温氷點下一度にて谷川の水は結氷を見るに至り人々は深く藏込んだる防寒具を引出し慄ひ居れりと

支那巡防兵の亂暴

安東縣駐屯巡防歩隊第五營前哨巡防兵[illegible]せんとせるに巡防兵は突如之に喰つて掛り[illegible]も協力の上遂に兩名共取[illegible]縛し直ちに本署へ引致せるが三日午前に至り更に巡防隊士官劉文堂我警察署に出頭の[illegible]人等も亦輕微の打撲傷を負りと（安東）

連絡船旅客數

四月中關釜連絡船にて釜山に出入せし旅客數は合計二萬五千二百六十四人なる[illegible]の夥しく增加したるは漁業開始に向ひたる漁夫の渡來するもの[illegible]江の渡來の開發の頭遊せると中流家族避暑者の降來せるものに因れり（釜山）

大阪大慘事と罹災民救濟

大阪東京倉庫會社の椿事に就き同社長岩崎男は慘狀視察の爲め七日朝來阪し善後策協議中なれば何等か罹災民救濟の方法を講ず可し爆發の原因たる鹽酸加里を落せし仲仕有澤倉次は起訴さる（大阪特電）

喜佐方丸船長等還る

獨逸潜航艇に擊沈されたる第二喜佐方丸船長山本虎太氏等六日神戸に歸著せり（大阪特電）

咸北にも降雪

咸北富寧附近は五日夜十時より六日朝迄降雪あり山野は見渡す限り白皚々たり（淸津特電）

北鮮青年大運動會

北鮮青年大運動會は七日羅南に擧行され盛況を極む（淸津特電）

龍山荒しの擒軍

住所不定前科四犯の擒軍李昌五（三〇）は京市中を徘徊し二月二十九日以降四月三十日迄に龍山漢江通和田源七郎、豊島九十郎、秋農蕃太郎、榎本俊次郎、藤井七三郎、三島長吉方の各戸に忍び込み洋服數點、メリヤス、醤油等を窃取し蓬萊町三丁目李應仙に二足三文に賣却して徘徊中を本町警察署の手に検擧さる

狂犬續出

被害者は小兒が多い＝明治町に三頭、飼犬に注意

京城明治町二丁目桑原儀一方飼犬は三日主人に咬みつきたるより獸醫診斷の結果狂犬と確定せり同町二丁目清水八十八方の飼犬も五日診斷せしに之れも狂犬と判明せり同町二丁目三石務方飼犬は六日附近の竹下福藏（一九）同人内縁の妻江頭ふじ（三〇）の兩名に咬傷し被害者は即時手當目下加療中なるが之れも狂犬と判明し右三頭は

▲何れも撲殺 したり次に花園町松田つる方の飼犬は六日本町四丁目荒井克男（六つ）に咬傷せり最近一ケ月中に斯く狂犬續出し殊に明治町二丁目のみに三頭の出現を見るに至り且つ咬み付きたる狂犬は其筋各方面を狂奔する爲め其都度警官及び撲殺隊は之れを追跡して市中を驅廻り一方被害者には

▲手當を施す など狂犬一頭の出現のため大騷ぎを演ずる例なるが這回狂犬續出したる明治町一、二丁目にては目下畜犬七十八頭許りあるにて本町警察署にては是等の豫防撲滅上七日明治町畜犬飼養者全部に對し當分の間畜犬の繋留方を示達する所ありたり、是に就き當局の談に依れば『京城は一體に犬を飼ふ向きが多いから單に狂犬として咬傷し

▲人畜に害毒 を及ぼすものばかりでなく多數の畜犬中には咬癖のあるものが尠くない、試みに本町警察署の管内で主として内地人の飼犬であつて四月中に屆出でのあつた咬傷被害人員でも廿四名あり尤も其の内三名だけは狂犬から咬まれたのであつたり其他の二十一名は咬癖の畜犬からやられたものである、五月に這入つても既に七頭ばかりの犬に十二三名やられてゐるが

▲是等被害者 に對しては飼主から醫藥料を支給しつゝあるが昨年など或る畜犬飼養者の如き數十圓の損害料を支出した向きもあつた而して大人よりも小兒の咬傷されるものが多いから保護者の方では最も注意を要する、何しろ京城では犬一頭飼ふのも馬鹿にされないことゝ思はれる』

滿洲夜話

旅順の驛長

▽戰跡に泣く 久保田金平氏

▽每度の貰ひ泣き＝旅順の土となる覺悟＝乃木將軍から愛された△

旅順の驛長久保田金平さんといへば廣い滿洲は愚かのこと日本内地までも知らぬ者はない。誰れでも旅順の戰跡を弔訪に來たといへば驛長さんは大悦びで眞先がけに案內役を勤める。それが昨日や今日の仕事ではない、殆んど十年一日のやうに去る四十一年以來引つゞいての仕事である驛長さんは死ぬるまで旅順に居るといふ、滿鐵をやめたら旅順で隱居する決心とかで雪の朝も雨の夕も一日も旅順の勇士を弔はぬ日とてはない。驛長さんは旅順の案內役に生れて來たやうな男である。

われ／＼の汽車が大連を出て劍山の山影に胸の鼓動を躍めつゝあつた時、驛長さんは滿鐵特有の緋羅紗帽子でモウ其處此處の窓外を指し始めた。私共が旅順背面の光形の道に馬車を驅る時、驛長さんは物凄いやうに靜かな杏花和の下でいうた『私はこれまで何萬人の人を案內したか知れぬが其の度毎に涙が出ますちや……たつた此のうちも私は六十あまりのお爺さんを一人案內しましたが、その人は望臺の地隙に立つた暫くは顔を上げ得ませぬ、稍々暫くしてお爺さんは肩にかけた包みから二三顆の果物を取り出し德利から一杯の水を汲みました、そしてお爺さんの言葉を聽いて下さい――伜よ此の果物は日本のお前の家の庭に出來たものぢや、此の水はお前が飮むだ井戸の水ぢや――と言つて泣くのです……話は毎度のことで私は每度貰ひ泣きさせられるので困ります……』との話しであつた。

旅順の山は今暖かい長閑かな春光の下に物凄いまで靜かに／＼納まり返つてゐる。スラブ魂そのまゝの巨大なベトンの穹窖はポカンと大きな口を開けて暖かい日射に日向ぼつこりをしてゐる。地獄の釜よりも猶ほ恐ろしい胸臘の下には大和魂の血が龍花の花と咲き出でゝゐる。驛長さんはまた肥紐をかけたまゝ洋杖を指さしたなさ思うたら驛長さんの聲が亂れて來た。そのうちだん／＼驛長さんは我とわが大きな聲で說明し始めた。話しに感極まつて熱い涙をホロ／＼と溢して居た。

久保田旅順驛長

乃木大將は生前非常に驛長を愛した。殉死の前日も旅順の驛長にとて特に人を以て傳言した。殊に四十二年表忠塔の落成式には東郷元帥以下並居る戰勝の勇將の前で久保田驛長に逢ひたいとの申し出。驛長が將軍の前に恭しく進むと、將軍は默然として驛長の顔を見守りながら『久保田さん、貴下はいつも兵隊を可愛がつてくれるチウ事ちやが此の乃木からも厚くお禮をいふ……』とてしげ／＼と面を見られた相な。そして旅順からの歸りには大連までの車中を起立したまゝで諸所の戰跡を驛長に指さゝれたといふ。あゝ十年前の乃木將軍は亡い。乃木少尉もない。肉彈と凝れた數萬の勇士もない。しかし鬼神を泣かしむる勇士の魂は永久日本國民の血管を流れてやまぬであらう。久保田驛長の涙も亦永久に／＼かわかぬであらう。（金谷生）

○曹谿寺講話（大和町三） 八日午後一時より婦人會員の講話法要あり

讀者文藝

（一等には五十錢二等には十錢の相當物品を呈す）

△俗謠「高」

○建てた鯉よりもまだ／＼高く出世させたひ親心（一等） 平壤 太郎坊

▲高く開いて散る花よりも低く出て咲く岩つゝじ 龍岩浦 大石劍牛

▲よろとさわろと噂が高いたつた一度の逢合傘 京城 久遠家

▲花の盛りにや噂が高い散れば見もせぬ言ひもせぬ 京城 東海

讀者文藝課題及募集規定

課題 [illegible] 締切 五月七日 發表 五月十八日

募集規程 ▲用紙は端書又は同形の洋紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事▲[illegible]▲[illegible]

天氣 （七日午後六時發） 八日 曇り時々晴れ

[illegible]

商況

公債直取引

	東京
七日出來値 五分利特別	九七、八〇
五分利甲號	[illegible]
四分半利	[illegible]
一回四分	[illegible]
二回四分	[illegible]
甲五分	九七、六〇

債券現物特電

	東京
七日出來値 東洋拓殖	六八、五〇
京城電氣	五六、〇〇
朝鮮銀行	[illegible]
朝鮮興業	[illegible]
南滿洲鐵道	一九、二〇

深川在米特電

七日現在高 朝鮮米	一八六、二八七
內地米	六三、八五二
臺灣米	[illegible]
內地米	一、六八八、九九三

東京期米特電

	五月限
七日前場 寄付	一八、一二
高値	一八、一二
安値	一八、一〇
止め	一八、一〇

大阪株式

銘柄	拂込	五日前場	五日後場
宇治川水電	[illegible]	—	—
京阪電鐵	[illegible]	—	—
東洋紡績	[illegible]	[illegible]	—
合同紡績	[illegible]	[illegible]	—
鐘淵紡績	[illegible]	[illegible]	—
同上新株	[illegible]	[illegible]	—
東洋製糖	[illegible]	[illegible]	—
大阪商船	[illegible]	[illegible]	—
日本郵船	[illegible]	[illegible]	—
同上新株	[illegible]	[illegible]	—
堂島米穀	[illegible]	[illegible]	—
東京新株	[illegible]	[illegible]	—
大阪株式	[illegible]	[illegible]	—

大阪三品特電

五日後場	寄付	止め
五月限	二一二、〇〇	二一三、一〇
六月限	二一六、五〇	二一六、八〇
七月限	二〇三、九〇	二〇三、〇〇
八月限	二〇一、四五	二〇一、五〇
九月限	二〇〇、〇五	二〇〇、二五
十月限	二〇〇、〇〇	二〇〇、二五

大阪期米特電

七日前場	寄付
當限	一七、一六
中限	一七、五〇
先限	一八、〇〇

下關期米特電

七日前場	當限	中限	先限
寄付	[illegible]	[illegible]	[illegible]
高値	[illegible]	[illegible]	[illegible]
安値	[illegible]	[illegible]	[illegible]
止め	[illegible]	[illegible]	[illegible]

雜報

北海小豆亂高下 跳返し十三圓五十錢に騰れり

過日十五圓の天井打ちたる北海道小豆は去る五日にいたり利喰續出して暴落し一旦十二圓まで下りたる間もなく六日には又跳返し十三圓五十錢に騰れり

輸出筋買進み

見越なりとの人氣あり內に漢江筋の舟便に開けたれば昨年不作の影響にや小豆出廻りは意外に尠く又當市場は過般の高値に追ひ込まざりしだけ高下ともにさしたる影響なく

片栗粉暴騰

本商店にて伊太利輸出二千瓩の契約成立せる由にて北海產地相場は本月初め檢一等十三圓十錢内外にて出來せしもの三日には十四圓五十錢位に迄騰せしが其後更に棒立ち十五圓を雜するに至り產地は今や大手筋の商戰激烈なるもの〻如く延いて買盤へに持品薄なる京仁市場は其影響又少からざるべし

氣配は依然強含

滿洲粟又高し

來滿勝せる滿洲粟は產元各地ならびに最近入電は遼陽產百斤四圓七錢海城四圓二錢と本年第一の高値を示せるが之を月初値段に比較すれば遼陽は十五錢方海城は二十四錢方の暴騰にして獨り四平街のみは先きに奔騰せし丈け今度は異動なく五日

京城正米

健以上を保つ 會社の建 來稀有の現象

[illegible]

京城雜穀

▲大豆 漢江出水出廻り增加し日によりては二千叺に達する事あり出來は一般には更に二十錢高を唱ふ滿洲は兩三日保合なるが奥地廻送困難にて內地高見越なれば鮮內强含みなり

▲其他諸品概ね高保合

南大門の廻穀

▲六日分 水原白米	四二叺
砂里院玄	三五叺
平澤籾	二五叺
群山白米	二九八叺
江景白米	二五叺
平澤玄米	五四叺
▲七日分	
鎭川麥	二八叺
砂里院玄	二〇五叺
水原白米	二九叺
砂里院玄	一九〇叺
水原白米	二一叺

仁川現物市場

△穀入津五六百俵 氣配は正米安に連れ弱人氣を唱へ居れり

△正米入津二千餘叺

粗布賣止解除

[illegible]

買相應に行はれたり

[illegible]

處迄賣買行

高値行過ぎ反動 内地相場

喰ひ米棉

動く暴落 三十五錢方の反

[illegible]

鐵板亞鉛線高 盛 實需は依然旺

人電三圓七十六錢を報じたるまゝ保合へり市中は鮮白の反動安に崩氣挫けたる觀あれど實需は依然旺盛にて產地高に伴ひて騰貴しますます入荷あり

▲鐵板類は不足の爲品 中棒鐵類は既報の如き市情にて今尙持合ひ狀態を脫せざるも

十錢高 圓高共亞鉛線通じ 五圓乃至十

森仲買店

仁川米豆取引所仲買人 仁川港仲町三丁目 電話店用 長九〇五番 六二五番 本宅電話 八三〇番

生魚市場

京城魚市場 [illegible]

仁川期米

▲七日前場

九錢高の入電

十七圓九十七錢八節

九十二錢と安移り

○四錢と小高き移 大阪七節

大阪四節

▲續て不勢

前日高値目先天井

如何依又復捲土重來 今後大阪は

市場零聞

▲保合頭重し

[illegible]

仲買店

仁川米豆取引所仲買人 電話 四二八番 二二三番

仁川米豆取引所 七日の七月限

	寄付	高値	安値	止め
前場 一節	十三圓九十八錢			
二節	十三圓九十一錢			
三節	十三圓九十四錢			
四節	十三圓九十五錢			
五節	十三圓九十四錢			

賣買取組高		前日と比較
五月限	一萬七千石	
六月限	四萬七百石	
七月限	三萬四千六百五十石	

▲前場の手振

漸く落付

降雨に目先水不足の憂

一正米界の安人氣

▲能く買ふ（前場同店より）

▲能く賣る（前場同店より）

▲能く買る

▲能く賣る

青物だより

降雨のため内地からの入荷杜絶にて品不足のため價格は昂騰せり[illegible]

……日本飲食店營業權に登……官は之……引渡しを……中村の兩巡査通合せ之を制止……充分取調ぶる必要ありとて之を拒……因に押……裂傷及び結膜溢血全治迄約三週間……創傷を蒙り陶山巡査及び家……

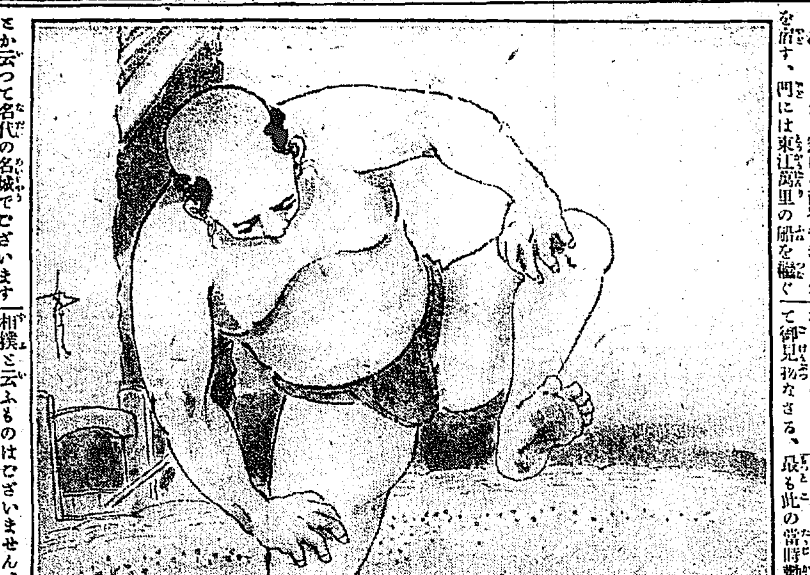
明君道中記

第百三十八席 田邊南龍口演

大手の御門は龜形御門と云ひ又桔梗御門とも云ふ、是を石川八左衛門が破ると云ふのでございますが怪力の人があればあるもので、此の八左衛門が怪力のお話しをいたします、天正十八年八月朔日徳川家康公江戸へ御入國遊ばし、御入城となつたのが西丸でございます、此の江戸城は永祿の元年太田持資入道道灌の築きしたもので

我庵は松原續き海近く
富士の高峰を軒端にぞ見る

と詠じました、窓には西嶺千秋の雪を宿す、門には東江萬里の船を艤ぐとか云つて名代の名城でございます、その後家康公が増築をしたのが本丸でございます、千代田寶田祝田の三郷に跨り、紅葉山鶴舞城と稱しました、四神相應の地を型取つたのが梅林竹橋龍の口虎の門であります、その外三十六見附など造らへましたが實に難攻不落と云はれ、總て城と云ふものは周圍に要害のあるものを以つて宜しといたす、前には箱根山の難場を控へ神奈川臺に一騎打と云ふ處があり後方に小佛、摺針の峠があつて横手には隅田川中川利根川の三河を控へ、品川の海は遠淺にして大船を入れる事叶はず月鎮護九ヶ城あり是は小田原沼津の城、常陸に土浦笠間、武州に川越行田岩槻古河宇都宮の城々、是何れも江戸の城を守るのでございます、その間に十八檀林と云ふ寺々があるが是は旗下の屯所でございます、若し江戸の城が落城をすれば日光山へ引上げ是に立籠り七十五丈の華嚴の瀧を切下すと大谷川へ水が押出し鉢石今市の邊まで水浸しとなつて寄手を惱ます、又日光奧山よりは信州今切へ出る拔け道があるから兵糧に差支はございません、茲を見立つて徳川家康公は在城としたのでございます、時に家康公が隱居して大御所公と申し上げ家督は秀忠公へお譲りなすつた、恰度三月の三日上巳の節句、此の御祝として城内吹上げの庭に於いて相撲を催して御見物なさる、最も此の當時勸進相撲と云ふものはございません、諸家に力士組と云ふのがあつてそれを召出して相撲を取らせるのでございます、其事が御沙汰になつたので諸侯方は力士組の中でもその人を選み薩州から出したのは櫻島權吉、鍋島から岩船源次郎、立花より一力庄兵衛、藝州より要石與吉等と云ふものを差出しましたから、右の力士は江戸表へ集りまする、扨愈々當日と相成ると上巳御節句の御表の藝が濟でそれより家康公秀忠公御親子、吹上げの御苑へ成せられ旗て出來なりましたる棧敷に御著座、外様大名或ひは一家一門の方々まで拜見を仰せ付けられたる事故皆お棧敷に控へて居りまする、その有様は綺羅星の如く行司は細川の臣吉田善左衛門と云ふ人が司るので、その中に相撲勝負が始りましたが、御前相撲のことで皆一生懸命、勝もあり負けもあり或は引分勝負なしと、追々に取進んで參りました結びの相撲と云ふは仙臺の控へ門梶之助と結城三河守秀康の控へ業平雲平との取組で、云はゞ此の場所の大關と大關の取組でございますから家康公始め諸侯の方々これぞ見物と片唾を呑んで見物をして居りまする、門梶之助が土俵へ上つて業平雲平の出るを待つて居ると何時まで過ても出て來ない、是は何うしたわけであるかと云ふと、業平雲平が急病で相撲が取れない、休息所にて醫者よ藥と騒いで居る始末で相撲どころではございません。



書画用 絖画絹 京染呉服商 まや出張店 京城永樂町二 電話一九六番

入院隨意 (京城南大門通二丁目七番地 漢湖農工銀行前) 胃腸病院 電話一六五九番 院主 佐々木杏造

齒科診療 野田齒科醫院 本町一丁目三越向 電話一〇四七番 齒科醫士 野田應治

三歳
五月九日 九星 西三月十九日 辛亥 本命六白 乾 危 先負
▲六白 若嗟くする事有る日新事見合す方は吉 ▲七赤 判然する日 ▲八白 ……▲九紫 厄介を持込まるゝ事あり ▲一白 清美の日 ▲二黒 ……▲三碧 ……▲四緑 平運の日なれども……▲五黄 ……

□演藝案内
御成町 電二一九一 御成座 △第十七興業題 小杉天外氏著『悲操』全七場 二『冬の夜』全二場 登場俳優(新加入)林五郎、山崎定雄、吉柳直松正、津田時男、矢野勘次郎、花岡香、川上源太郎、小松春夫、淺川明雄、志村一木、三島道、清水謙、平野一郎、小役小静、谷子、前田三郎

大正館の 連日連夜 滿員御禮 春の海 毎夜館内人の海と涙の海となる

明治町 電話二六〇 浪花館 ▲近日娘義太夫一座にて開演可仕候

大好評の 黄金館 長岡彌生の空鳥も唄へば花も笑ふ 百花爛漫の喜劇 年俸二百萬圓の商給者 チャプリン出演 大滑稽 戀の騒ぎ 滑稽日本一 辯士 久世春濤説明 文藝古典劇 ヴェニスの鮮血 社會劇 レッドベアード 揃いも揃りて天活會社の秘藏寫眞お見落しあるな 寫眞は二度と來ない ◎愈々八日限り◎

電話一三三七 黄金館

櫻井町 電話八七三 大正館

京城本町一丁目 電話二〇五番 有樂館 ▲江見水蔭作 新派喜劇 大正七櫻 八三巻 合戰(全五巻) ▲教育參考 學生教師必覧 大史劇 川中島大 ……早川増太郎

▲書籍案内▲
井田絃聲著 小説 妻 價七〇 税八
德富蘆花著 小説 不如歸 價四〇 税六
同 縮刷小説 思出の記 價六五 税六
京城日報代理部(振替京城三〇〇)

一千反限りの 縞セル 正金用 金指輪進呈 東京流行縞セルが一反只の一圓九十五錢で買へるとは染料や原糸の高き今日嘘のやうだが現に過去五年間呉服類の格別安賣で評判を取た東京日本橋區本石町壹丁目呉服問屋關谷商店が自慢の縞セルを前記の馬鹿値で投賣りしつゝあるが日々羽根が生へて飛ぶ大賣れ……

わきが は 音尾博士の創見 ……東京博愛藥院

●マラリアに一番 ヨクキククスリハ 龍川林藥房製劑の マラリア特効丸 本舗 龍山 林藥房 代理店 京城本町一丁目 山岸天祐堂

小便の病 小便に幾度となく行きたくなる病 小便した後こゝろ持ちあしき病 勝胱カタル尿道カタル尿道の痛み 小便ニゴリ又は膿や血の出る病 りん病しよかち 右病者は往復ハガキにて照會せらるれば最良藥を詳報す 播磨國加古川東 藤原悦

模範 牛乳 石鹸 洗粉 ニウソ 主 肥塚正太 京城蓬萊町四丁目 東亞牧場 電話五二番

太田胃散 胃病良薬 ○飲過ぎ食過ぎに妙なり 本舗東京呉服町 太田信義藥房 全國到る處の藥店に販賣す

山縣五十雄 村上唯吉共著 富の道しるべ 價十五錢 郵税二錢 京城太平通 振替三〇〇番 京城日報代理部

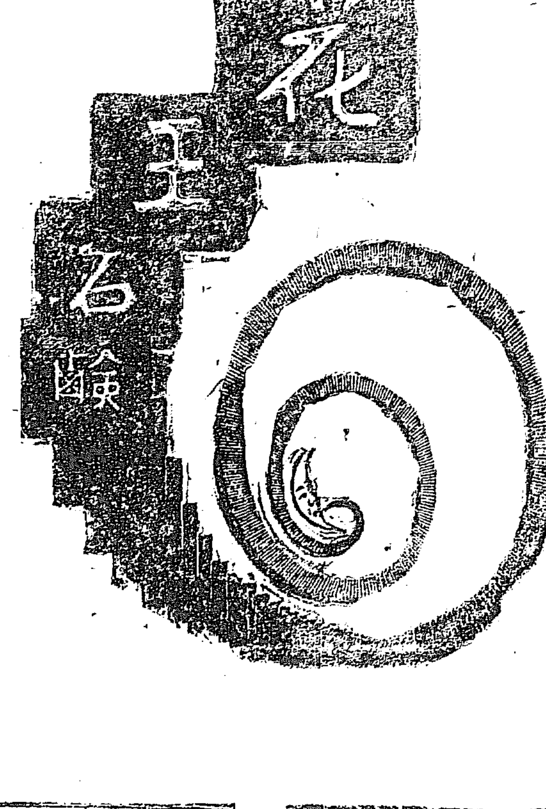
米 曾我商店 ……

時計貴金屬 美術品 糸岐商店 本町仁川 電話三七〇 振替京城七一

目に青葉山郭公初松魚
初松魚の聲は勇ましく、青葉薫る今日此頃は、得て眼病に罹り易く最も大學目藥を必要とする季節也。眼病ある諸君は、疑擧ある大學目藥を用ゐて速かに其病を治さるべし。

賣れる！賣れる！飛ぶ程ご賣れる!!
弊社代理部が幾多の萬年筆中より選拔し數萬の讀者より素晴らしき評判の
最新一千九百十七年式 紐育ピュメル會社製正十四金ペン
パイン萬年筆
定價 押田式萬年筆 紳士向 金六圓八十錢 同 婦人用 金五圓八十錢 インキ止式 紳士向 金三圓八十錢 同 婦人用 金三圓八十錢 同 紳士向 金四圓九十錢
自然破損は一ヶ年間交換決諾 共同購入は特に割引
鮮滿總代理店 京城大平通(振替京城三〇〇番) 京城日報社代理部
陳列所 京城本町二丁目 ウツボヤ書店

朝鮮人蔘 應用 滋養菓子 ホーカースヰート 滋養たべる丈血となり肉となる 堀越商店の製菓試驗部にて滋養強壯劑眞正朝鮮人蔘其他數種を應用精製したる最新の滋養菓子ホーカースヰートを試みよ到る處に販賣す 東京和泉橋 堀越嘉太郎商店 (振替東京一二五六)



製造發賣元 東京、長瀬商會　關西代理店 大阪ニ大阪大阪本舗組合會

▲地方 ……南東▲……南西風強く降雨あり……▲警戒區域平安南北道の沿岸

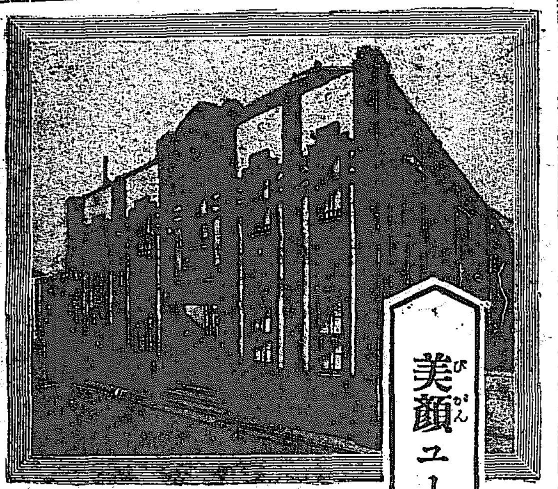
△……日 △下旬付 △……日報編輯局讀者文藝係

▲朝使へば一日中顔色 活々と美しく保つ

美顔ユーマー

●美顔ユーマーは美顔白粉と共に……尊貴の御用品たり!!

桃谷研究試驗所の外觀



美顔ユーマーを創製したる 桃谷研究試驗所

■所長 藥學士 桃谷幹次郎
■技師 理學士 西澤勇志智
■仝 醫學士 米倉昌達
■仝 千葉藥學士 小磯勝次郎
■仝 仝藥學士 齋藤銳助
■顧問 藥學博士 丹波敬三氏
醫學博士 山本淳二氏

■美顔ユーマーを お使ひになれば!!!

一 朝使へば一日中顔色を活々美しく保つ事
これはユーマーの主成分になつてる粘液素と白色素との作用で、粘液素が毛穴を開き、白色素が其開いた毛穴から入つて働く。それでユーマーの効力は何人にも直ぐ判る程に優れてゐるのです。

二 白粉の溶水として優秀なる事
肌理の好くない方、餘り白粉を附馴れない方などでも、ユーマーで白粉を溶延してお用ひになれば、白粉が毎に無く思ふ侭に、澤といひ色といひ如何にも美しく附きますので何人も意外の感に打たれます。お化粧を美しくなさらうといふ方は殆ど皆溶水にユーマーをお用ひになつてゐます。

三 アレを防ぐ事
少し寒くなると、お顔が荒れて困るといふ方が隨分あるのですが、ユーマーさへ使つて居らつしやれば決して皮膚の荒れる事の無い事は何人にも忽ちお判りになります。

四 垢ヌケする事
これは美顔化粧料獨特の美容素が入つてゐるからで、此美容素は桃谷研究試驗所で發見したものであります。ユーマーを常用せられる間には、日毎の顔色の美しさばかりで無く、段々垢ヌケした顔だちとなる事は何人も御承知の事であります。

大阪 桃谷順天館 東京

京城日報

五月八日
（夕刊と合せて八頁）

本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金五十五錢 郵稅一ヶ月金拾五錢 前金に限り三ヶ月分二圓六十錢 六ヶ月分四圓 ▲郵券代用二割増
廣告料 ▲五號活字十六字詰壹行金八拾錢 ▲二號活字八字詰壹行金六拾錢 ▲三號活字同上四拾錢
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介
京城太平通一丁目
發行所 合資會社 京城日報社
電話 編輯用三四五番 營業用三四二番 二一三六番 振替貯金口座京城二〇〇番

第三版

下關期米特電

七日前場（前日不買目先買締る）　當限　中限　先限

七日の六月限
後場寄 十六圓九十錢
止メ 十六圓九十七錢
高値 十六圓九十七錢
安値 十六圓九十錢

五月限 一萬六千百五十石
六月限 四萬六千六百石
七月限 三萬七千百五十石

▲七日後場▲兵庫後寄不明東京十七圓九十九錢大阪前場十七圓九十二錢後寄九十錢の入電にて[illegible]より十三圓九十錢と寄付一正八十九錢迄に辷りたるも[illegible]其他より買物多く入り[illegible]九十七錢と上伸し高値の儘散會を告げたり市況は大阪の不味も正米安も一向利用なく安値は賣方の警戒に存外強き成行を示したり不知今後の展開果して如何

▲[illegible]の商內 [illegible]玉數三千餘石買たる[illegible]一萬千餘石の買ありたるも注目を惹いたり

▲④能く買ふ 後場同店より買ひたる玉數五千餘石に上りたりとの事 前場四五百石の買ありたるも注目を惹いたり

▲㊀の商內 玉數五千餘石に上りたりとの事

▲㊦の商內 後場同店より賣りたる玉數三千餘石に上りたりとの事

▲後場下灑る 大阪の成行は前報後々場寄十七圓九[illegible]

▲現物界 海州玄米十三圓五十錢にて四百六十八叭川米たるのみ正米筋は二十錢安見當なるも買捨への態度にて商談捗々敷からず見送り居れりとの事

大阪株式特電

七日前場

銘柄	前場	後場
日本郵船	二七四.〇〇	[illegible]
同上新株	二六八.九〇	[illegible]
[illegible]	二三三.〇〇	二三一.〇〇
東京株式	二四九.九〇	二四六.九〇
大阪株式	三三七.〇〇	三三〇.〇〇

支那商工業の變遷（七）

今關天彭

四、周代の工業（其二）

支那の文明は周、殊に成周を以つて頂點とすること前記の如し。今、工業上の事を考工記といふ書物から見ると、工業に關する役人が凡て三十二程ある。攻木の工即ち木工が七つ1輪人、輪と蓋とを作り2輿人、輿を作り3弓人、弓を作り4廬人、五兵の柄を作り5匠人、國都を經營し及び宮室、溝洫を作り6車人、車と耒とを作り7梓人、筍簴と飲器と射侯とを作る。金攻の工即ち金工が六つ1築氏、書刀を作り2冶氏、殺矢と戈戟とを作り3鳧氏、鐘を作り4栗氏、量を作り5段氏、鎛を作り6桃氏、劍を作る。攻皮の工即ち皮工が五つ1函人、甲を作り2鮑人、革を治め3韗人、鼓を作り4韋氏5裘氏の二つは缺文で、何を作るやら判らぬ。設色の工が五つ1畫2繢、この二官は官は分れたれども職は同じい3鍾氏、羽を染める4筐人、これも缺文5㡛氏、絲を湅る。刮摩の工が五つ、1玉人、圭、璋、璧、琮を造り2楖人、闕く3雕人、闕く4矢人、矢を作り5磬氏、磬を作る。搏埴の工が二つ1陶人、甗甑等の瓦器を作り2旊人、簋を作る、また瓦器である。思ふに周公は大いに工制を立て文明の基礎を築いたのであらう。成周は建築に於て大發達をした。宮室建築では先づ1は學宮即ち學校である、天子のを辟雍といひ、四面に水を繞らし、その形は璧の如く、諸侯のを泮宮といひ、東西南の三面に水を繞らして、その形は半璧の如しとある。2は明堂とて天子の諸侯を朝せしむる處、高さ三丈、方三百歩上が圓く下が四角で、八窓、四達があり、中を五室に分ち、四隅の室を合せて九室となる。3は宗廟で、天子は七廟、諸侯は五廟、大夫は三廟、適士は二廟、官師は一廟づゝあつてその廟はみな南に向き、門、堂、藏、室がある。4は朝堂で、天子に外朝、治朝、內朝の三朝があり、門を五つ建てる、則ち臯門、庫門、雉門（この門外に外朝がある）應門、路門（この門外が治朝で、この門內が內朝となる）諸侯は天子と同じく三朝あるが、門は三つしかない、即ち庫門（この門內が外朝）雉門（この門內が治朝）路門（この門內が內朝）である。5は宮寢で、天子に路寢一つ、小寢五つあり、また後宮の六宮は、王后がこれを治める。諸侯には路寢一つ燕寢二つあり、また後宮三つあつて夫人がこれを治める。卿、大夫、士には、正寢と燕寢との二つがある。6には草で葺いた室と瓦葺とがある。城郭建築は、天子の城は方十二里あつて、城の高さが七雉（長さ三丈高さ一丈が一雉）隅即ち城上の小樓が高さ九雉。公爵の城は方九里城の高さは五雉。子男爵の城は方五里あり、城外には郭をつくる。道路建築は、國中の道路を經涂と曰ひ、九軌即ち九輛の車が並んで通られる。城を繞る道路を環涂と曰ひ、七軌並び通り、國外を野涂と曰ひ、七軌並び通る。常時道路の交錯したる名稱については、一達即ち一本の長い路を道路と曰ひ、二達即ち岐道のあるのを岐旁と曰ひ、三達を劇旁と曰ひ四達を衢、五達を康、六達を莊、七達を劇驂、八達を崇期、九達を逵と曰ふとあるから、道路の能く整理せられた事が判る。橋梁には、舟を編みて作るのや、木を架けて作るのや石を聚めて作るのやがある。また溝洫となるとは、いはゆる五溝とて二尺立方積なのが遂、四尺立方積なのが溝、八尺立方積なのが洫、一丈六尺立方積なのが澮、そしてそれ等の水の流れ込むのが即ち川である。もし水の流れが悪い時には、曲折をつけ、それに溝防をつける。

遊支所感

（七）財政及金融

漢城銀行專務 韓相龍氏談

△支那の財政　支那の財政に就きては世間非常に之を悲觀する者あり、其の危急朝夕を計らず、政治、經濟は勿論有ゆる方面に於て、外國よりの借財なくば一日も支持し得ずと爲せり、素より同國の財政は外債に依りて維持せられ鐵道に港灣に將た政治に其の施設何れも外國借款に依らざる無きは勿論なるも予は之を以て直ちに支那の財政を悲觀す可しとは思惟する能はず、政府は民國五年の豫算を本年度議會に上程するが如き狀况なれば財政の眞相は素より知悉するに由なしと雖も予の觀察を以てせば同國の財政は之が整理如何に依りては充分順調に向はしむるを得可しと信ず但し茲に一難事は往々地方に革命又は意外の事件勃發することにて其の爲め內外國債は增加の一方に偏せるにはあらざるやを疑はしむ

△政府の豫算　却說支那政府の豫算は一年約六億元內外にして其主なる收入は鹽稅約九千六百萬元、海關稅約七千三百萬元、合計大凡一億七千萬元なるが此の二稅は共に外國の監督下に一週二回各港に於て之を徵收し每月二三回宛一纏して上海なる外國銀行に送致す、而して同行は此の內より月割償還の國債を控除し、其の殘額を北京政府に送附す、此の殘額每月約四百五十萬元なりとす。又た各省に在りては二三貧弱にして中央政府より經費を補助せざる可からざるもの、外何れも省內の取立金を以て自省の經費を支拂ひ其の殘額を中央政府に納付す、此の納付金額は總額八百萬元を下らず、此の各省納附金と關稅收入とを合算せば中央政府の收支は優に相償ふことを得るなり。一昨年政府の財政窮乏を訴へし際外國諸銀行は何れも借款成立の運びを得ずば政府は爲めに破綻を免れざる可しと思惟し居たるに同國は數月を經るも何等破綻の狀况なく軍警の給料を支辨して裕々たるものありしが如き如上の理由に因らずして何ぞや。

參湖零話

露國廢帝の財產

山縣生

露國の廢帝ニコラスの私有財產の總額は四十億圓に上るといふ。其財產の大部分は外國の公債及び株式に投じてあつて、米國の鐵道株に投じてあるものだけでも一億圓に達し、現金の大部分は英蘭銀行に預けてあるそうである。それから廢帝が露國內に所有する土地は一億二千五百萬エーカーで、鑛產物の大部分も從來は帝室の收入に歸したのであつた。露國の新政府は如何に此莫大の帝室財產を處分するであらうか、それは頗る興味ある問題である。若し舊に依つて之を所持することを許すならば廢帝は蓋し世界第一の富豪となるであらう。然し社會主義者の勢力强大なる新政府は恐く廢帝に此恩典を及ぼすことはあるまい。何となれば今日の露國は多大の資金を要すると共に、大なる富を廢帝に伴はしむるは新政府にとりて一大危險の源因となる恐れがある故である。富や權勢やは其力大にして頼むに足るが如くなれど、非常の場合には甚だ頼み難きものである事は露國廢帝の例によりて知る事が出來る。愛と正義の土に基礎を有せざる富や權勢は砂上の樓閣に異ならず、一朝風雲到る時は忽ち崩壞する事の今更ながら切實に感ぜらるるのである。

放浪漫記

大谷光瑞（三月二十一日新嘉坡に於て）

二月二十五日上海出發、常陸丸にて香港に向ひ申候。常陸丸は載荷非常にして、ロイド載荷線インデアンサンマーの上二、三時を過ぎんとするが如し、故に一潮に乘じ、揚子江口を出づる能はず、爲に十二時間の假泊を濁流の中に忍ばざるべからず。小生大正三年十二月下旬、伏見丸にて上海出港の時と、今回と兩回の不幸に御座候。舟山遙島に入り、濃霧時に襲ひ、船長の痛心察するに餘あり、廿六日午前四時を過ぎ幸に霧霽れ、燈光を見、漸くボンナム水道を通過するを得たり。二十四日以來、揚子江中部に形成せんとせる淺薄なる低氣壓は、漸く深厚ならんとするが如く、この季節に少れなる、偏南東風を起せり。臺灣海峽を過ぐる頃、低氣壓は既に東海を過ぎ、本邦九州西岸に到達せしが如く、西風より變轉し、北西風となり、舟の香港に近きし頃は、偏北風より、定例の北東信風を起せり。二十八日午後五時香港著、森邨船支店長の好意に將し、同氏の邸に宿す。翌夜廣東に出發の所、船室を得ず。三月二日汽車にて、廣東に向ひ、早朝香港を出發せしに、時間の遲延せし爲、八時對岸の九龍停車場を發せし急行を失し九時三十分の慢行に乘じ、非行せしに、微雨蕭々不快云ふべからず、加ふるに急行三時二十分に過ぎざるに慢行八時間を要し、更に一弗の高價を急行の上に追加せり。小生多少鐵道旅行をなせし經驗を有すれども、慢行の急行より高價なるは今回始めて承知致候。五時間の長乘車の上に一弗の罰稅附加は、熱猴の懲罰として、實に高價に驚き入り申候。終日雨止まず、豫定の如く廣東著、行路は瘴氣の爲視るべからず、不快至極に御座候。晚來總領事館に入る、前年滿洲營口に在勤せられたる當時の太田總領事は、小生の舊知にして、小生を誘せり。總領事突然曰く『今夕江孔殷氏の邸に晩餐を喫しに行かざるか』と。小生江孔殷氏を知らず、總領事は同氏と相知にして、江氏又臺灣銀行小笠原支店長と相善し。小笠原支店長次で總領事館に來り、共に[illegible]するに、小生の廣東に來るに際し、異常の珍味を江氏の宅にて饗せんとの豫定にて、臺灣大尉其他諸氏は、汽艇にて小生を廣東停車場より、直ちに江氏の宅に伴はん爲、停車場に向へりとの事なり。小生感謝の辭を知らず、謹で好意を拜受し、臺灣大尉其他の諸氏には、電話にて小生の到著を共に、江氏宅に向ふべきを以てし、小生は、總領事其他の諸氏と共に、江氏の汽艇に乘じ、同氏の邸に向ひ申候。

南洋見物

（5）香港と九龍

淺岡重喜（投）

二月十七日の晩、夢を破る汽笛の聲は香港々內數十艘の汽船より一時に發せられた、何事ならんと思ふ折しも、俺の隣に寢た、ウヰスキー君、スタと起上りスワ一大事港內に船火事ありと云ふ、同君は元郵船會社の某地支店長たりし人にして[illegible]

[illegible]黑死病が流行して英國の醫者では手に了へず、日本へ依頼して、青山、北里兩博士が同時に出張し當時青山博士の如きは終にペストに感染して遂に危篤に瀕したこともある、斯る不健康地であつたのも、英國の莫大なる富の力で、セメント計りも五億圓も使ふたと云ふ大工事に依り市街も道路も水道も下水も、山上山下盡くコンクリートで固めて、今は流行病など捜しても無く、熱帶地には附き物の蚊さへも甚だ少なくなつたと云ふ程、隅から隅まで清潔に行届いて見ゆる、氣候は日本の四月頃の陽氣が一番惡い時で、夏の絕頂でも九十度位ゐだと云ふから、住み好い土地である、俺等を迎ひに來て呉れた人々も合著の服に麥藁帽子を戴いて居た樣である。

香港は東洋第一の貿易港にして、其貿易額は日本全國の貿易額に匹敵し、從て出入貨物の夥しいのは云ふ迄もない、又自由貿易港であるから、保管貨物も頗る多いのである、是等の貨物を取扱ふ大倉庫は、半官半民の組織となつて居る。

今日に於て英國は香港の對岸たる九龍を手に入れ、倉庫、棧橋、造船所等を設け、香港九龍間を連絡するに百五十噸位ゐの渡船を用ひ十五分間每に双方より出す、渡船は機船にして、棟下を三等室とし、棟上を二等室に充てゝ居る。此船の面白いのは、兩頭船である事なのだ前後頭にして普通の汽船の艫に舳先と艫の區別がないどちらも舳先きのある便利な船である、更に九龍より廣東に通ずる爲め、九廣鐵道を敷設し九龍の停車場丈けにても八十萬弗の大金を投じ附近の山嶽には年々六十萬本の植樹をなし二十餘年の經營事業にして居る、將來は香港を別地とし、九龍を以て貿易港とする方針である、彼れが九龍計畫を完成して、九廣鐵道を延長し英國の資本に成る粤漢鐵道と連絡を取り、遂には北京、漢口、九龍を一貫する樣になつた後の活動は、實に恐るべきものがあるであらう

日報詩壇

○春夜訪友　田淵黍州
今宵何忍獨私春。遠曳吟筇訪故人。楊柳如煙花如雪。酌杯月下到雞晨。
評曰　春夜[illegible]、如此寫來、眞是風流人之語

○春江漁父（限韻）　古城梅溪
春江十里綠回環。蒲岸桃花映眼殷。[illegible]。宛然身在武陵灣。雨笠風簑隔俗寰。夢魂未到利名班。魚換酒長相酌。十里煙波垂釣閒。
評曰　閒適之情可想

○梅花書屋圖（限韻）　一番瀨翠岳
繞屋皆梅樹。入窓香欲凝。誰披黃卷坐。萬象自淸澄。
評曰　詞意亦淸澄

○春日寄鄉友　田淵黍州
宿志蹉跎愴神。他鄉又過十回春。城花[illegible]身誰醉。[illegible]雁數聲悽故人。
評曰　余亦久在天涯、讀竟作○黯然

○春日寄鄉友　竹田蕉雨
煙波浩渺路三千。夜夜夢飛春水邊。是昔遊忘不得。與君同棹釣魚船。
評曰　淡華可喜

○春日禪房小集　永井烏石
半日淸遊遁世譁。[illegible]飫僧家。知詩蔬味總在乳泉三碗茶。
評曰　自有幽靜滋味

○春日禪房小集　成田魯石
不掃落花外塵。庭流入滿興情眞。詩人敲句僧敲鉢。併聽禪前鳥語頻。
評曰　對調流利

菖蒲　華虹（五の日十の日會吟）
菖蒲の日割つたとけの新運よ　鳥堂
菖蒲刈る菖蒲つかむ香

法人登記公告

長湍地方金融組合ハ組合長及監事任期滿了ノ處大正六年四月二十八日定時總會ニ於テ改選ノ結果金榮植ハ組合長ニ再選同年五月四日重任監事李鍾雲及高容憲ハ退任韓寅洙ハ監事ニ再選同年四月二十九日重任同日ホ左記二名監事ニ當選就任シタリ
京畿道長湍郡々內面邑內里二、八戶　權明洙
同　上　二、九月　文永基
大正五年五月五日登記
京城地方法院長湍出張所

轉住

小生昨冬來大分縣別府及び近畿地方客遊中の處都合により當分內地在住に決し今次左記に卜居致し候間乍略儀紙上を以て謹告し併て多年の御厚誼を奉謝候
京都府伏見町觀月橋畔
五月一日　長島品次郎
在鮮　辱知諸君各位

蠶繭 高價買入
魯桑種子 豫約販賣
養蠶具一式 特價販賣
京城府漢江通四番地
東蠶社
長電話龍山六四一番　振替京城二一六二番

實業之日本

五月一日號　定價一冊十三錢　郵稅一錢五厘
▲青年の新思想とは何ぞ……增田社長
▲北海炭鑛と經營首腦者……瑳川浪人
▲郵船會社の增資物語
▲成功請合の人……浮田博士
▲倫敦紐育世界金融爭奪戰……正金銀行一宮支店長
▲猛烈なる米國の禁酒運動……大倉洋紙店主
▲戰後の社會一變の新潮流……興業銀行小野副總裁
▲新歸朝者實話
▲おつ魂げた米國の大景氣……共同火災森知取締役
▲危機に瀕せる日濠の貿易……農商務省有働技師
▲在支那日本商品の大發展……農商務省吉田囑託
▲營養の增進食事法……村地醫學博士
▲新領成功秘訣 當代大實業家『機を見る神の如し』……碧堂
▲『養子物語』（今度は何人か）……素秋
▲戰時の國民の二大危險……新渡戶博士
◎發行所　東京京橋南紺屋町　實業之日本社

新裝を凝せる
夏帽子
帽子専業　田村商店
東京京橋南傳馬町　電話京橋二一二七　振替一二一〇五

煙突は高價なる鐵板製よりも低廉にして外觀壯美、施工迅速、堅牢無比、耐酸的なる
鐵筋コンクリート煙突に限る
久原鑛業會社佐賀關製煉所の大煙突は高さ地上五百五十呎 底部九十五呎 頂上內徑廿六呎三吋 完成す
▼目下兼二浦三菱製鐵所にて同煙突築造中
特許ウエバー式鐵筋コンクリート煙突
（カタログ進呈）
營業項目　特許コンプレツソル式基礎工事　ペデスタル　鐵筋コンクリート一般工事　鐵筋コンクリート用鋼材輸入販賣
東京市麴町區八重洲町一ノ一　電話本局二八〇六番
東洋コンプレツソル株式會社
大阪出張所　大阪市北區曾根崎上二丁目六〇ノ一　電話北一六二三番

坪內博士監修　增冊再版　通俗世界全史

申込　五月末日限
送本　六月より毎月壹冊　見本呈送
豫約要項　全部廿冊四六判布製各萬餘頁、總假名づき、歷史名畫寫眞百廿餘枚、沿革地圖廿八枚入れ
豫約價　即納十七圓、分納一圓宛廿回、送料每冊東京市四錢、內地八錢、支鮮樺臺十四錢

書名一覽
正編（十六冊）
東方列國史（一冊）
希臘史（二冊）
羅馬史（二冊）
新民族勃興史（一冊）
暗黑時代史（一冊）
封建列國史（一冊）
十五世紀史（一冊）
十六世紀史（一冊）
十七世紀史（一冊）
十八世紀史（二冊）
十九世紀史（二冊）
地圖及索引（一冊）
續編（四冊）
世界之日本史（一冊）
世界之支那史（一冊）
現代之大戰史（二冊）
〔注意〕豫約外に販賣せず
正編所藏者の爲に特に續編の豫約に應ず委細は見本を見よ

空前の世界通俗史
邦人の西洋史に關する知識の貧弱なるは從來たゞ教科書向の歷史ありて國民の嗜讀に適合せる好個の通俗史なきに由る。是れ坪內博士が多年の心血を注ぎて本書を立案し正史に巧妙の脚色を施して宛がら小說を讀むが如く、拍案三歎の妙を味ひつゝ古今の史變に精通せしめんことを期せる所以なり。果然本書は分量に於ても價格に於ても既出西洋史中の最大最貴なるにも拘らず豫約の大歡迎を博したり。完結後直ちに再版に江湖の熱烈なる要求に應ぜんがすべきの今再版に臨み世界歷史に交渉ある趣味的日本史、支那史、及び現代戰史の四冊を追加して名實兼備の世界全史たらしめんとす。
豫約元　東京市牛込區早稻田　振替東京一二一三三番　早稻田大學出版部　取次所各書肆

獨逸憲法改正

獨逸帝國議會委員會は宰相ベートマン、ホールウエッヒ氏の要求に依り帝國憲法の改正を決定せり議會は之に副署して責任を負ふべし（桑港電報）

獨宰相講和條件聲明

コッペンハーゲン來電＝獨逸副宰相ヘルフリッヒ氏は宣言して曰く宰相ベートマンホウルエッヒ氏は二週間以內に獨逸の講和條件を一層明白に聲明すべし（桑港電報）

ババリア國食糧問題

ツーリッヒ來電＝ババリア政府の閣僚ドライトヒ氏はミユーニック市に於て演說して曰く食糧問題の形勢は甚だ重大なり國民は菜食に甘んずるの覺悟なかるべからず獨逸の運命は今後數週間中に決せん（倫敦電報）

露國內形勢刻々險惡

露國新政府と勞働者及び軍隊との關係破裂せんとし形勢刻々險惡に陷りつゝあり（桑港電報）

獨潜艇と水雷敷設

華盛頓來電＝公報に曰く協商國側は獨逸潜航艇に對抗する爲め北海全部に機械水雷を敷設すべく計畫中なり（桑港電報）

宣戰問題形勢如何
段總理の政策反對者多數を占む

對獨宣戰問題に對する贊否兩派の運動は刻々險惡の狀を呈しつゝあり昨今參衆兩院議員約八百五十名中北京に在る者六百三十名其の中段總理の政策に贊する者二百二十名反對者三百七十名其の他の四十名は中立的態度を持し概ね棄權する者と見做されつゝあり形勢此儘に進行せば段總理は辭職するより外途なかるべく此の際段總理が如何なる手段を以て局面を切り拔くべきかは頗る注目に値す（北京特電）

鐵鑛試掘費要求

政府は余瀾鎭の鐵鑛試掘費三十萬圓を臨時議會に要求し協贊を經る事に決定せり（東京電報）

奉天より

▲商業會議所總會 奉天商業會議所は五月七日午後二時より同會議所に於て第百十回總會を開會左の件を議決すべしと
▲五年度下半期決算報告▲兌換問題に就き總領事館よりの諮問に答申の件▲滿洲銀行設立陳情書發表の件▲新會議所設立に就き同會議所は臨務費を負擔し職員をして其事務に當らしむる件▲大正六年度上半期豫算中借恒流用承認の件▲同會議所設立十週年記念に關する方法及び之れに要する費用支辨の件▲營口東南海關長を本邦人に改むる件に就き大連商業會議所よりの照會に對し意見決定の件▲八名古屋觀察團歡迎の件

▲ラッセル氏出發 來奉中の日米會長ラッセル氏は四日同幹事ヒップ氏と共に赤塚總領事の晩餐會に臨み五日午前十時京奉線にて北京に向ひたるが氏は五年前一度滿洲に來たれる事ありて這般の視察は稍々の感興を惹き滿洲產業に頗る意を拂へり猶氏の北京行は對支關係に就き重要なる使命を帶べりと

▲總領事の靜養 赤塚總領事は轉地療養の爲め暫く溫泉に赴く由なるが其場所及び期日は公務多忙の爲め猶未定なり

▲莊河縣炭鑛 莊河縣北沿海子大溝に炭鑛發見され關百餘なるが來奉出願せるより目下財政廳に實地調査中なり

▲露人馬購入 露國某武官は驃馬三千餘頭買入の爲め目下吉省城に於て商人王治玉を手先きとして頻りに運動中なり

▲四鄭購地紛糾 四鄭鐵道工事は著々進行中なるも唯だ土地買收に關して諸種の困難問題あり同局[illegible]

庶愿氏は之れに就き交通部に商議する爲め二三日前北京に急行せり

江原住民轉住

江原道平昌郡住民中細民部落に在りては一昨年[illegible]例なる本年は之を採取して食用に[illegible]路入夫役及び製炭等に依り薄利たりとも得せしめ其地に安んじて住居なさ[illegible]戸二百五十五人△珍富面三十三戸百六十二人合計二百三十戸千零八十六人[illegible]去る二日午前[illegible]

李王御訪問

李王、妃兩殿下には八日午後一時御出門壽進宮に李太王殿下を御訪問遊ばさるべし

李王御旅程

李王殿下には既報の如く來る九日午前八時二十五分南大門驛發特別列車にて咸興方面へ御旅行相成り來る十五日午後二時二十五分西大門驛著特別列車にて御歸著途德壽宮に御立寄り相成り同七時三十七分御歸宮の筈なるが御旅程左の如し

▲九日午前八時二十五分京城御出發、御中食汽車中、同日午後二時五十分特別列車にて元山御著（轎子）▲十日午前六時四十分御旅館發元山驛午前七時發車同九時永興御著特別列車にて直ちに咸興へ出發（自動車）同午前十一時三十分咸興著▲十一日本宮定和陵兩參拜▲十二日同地御休養▲十三日午後〇時咸興御發同二時五十分永興御著（自動車）同二時五十分永興御發同五時五十分釋王寺驛御著直ちに釋王寺に向け御出發同六時五十分釋王寺御著（轎子）▲十四日同地御休養▲十五日釋王寺御發同午後一時釋王寺驛御發同六時二十五分南大門驛著特別列車にて御歸途德壽宮に御立寄り同七時三十七分御歸宮

政務總監通過

滿洲視察中の山縣政務總監は七日朝安奉線にて奉天著直に大連に向へり（奉天特電）

北鮮海運好況

北鮮海運界の近狀を聞くに昨年江原道沿岸は大雨出水の爲農作概ね不況にて昨今は食料缺乏の極に達し居るより釜山より粟其他の廻送少なからず、又久原の甲山銅山の操業進捗し昨今其の粗銅の內地積出しも多く同山行き日用品も夥しきものあり、咸鏡南端川に於ける三菱の所有に係る鐵山採掘の說も人氣を唆び且つ商會鐵道も工事を進めつゝあるに付一般に貨客の輸送は繁忙を呈し居れりと

支那遍歷

中島生

南京より浦口へ

南京城壁の長江に迫れる江岸一帶の地、所謂下關は、滬寧鐵道の終點とし、又た長江を上下する船舶の碇繫地として、將來益々發展すべく、對岸の浦口と共に其の前途矚目に値すべく候。四月三日午後三時駁船に乘り小蒸汽に曳かれて下關碼頭を發す。日空怪しき氣に擾き亂り、風蓬なき荒び、濁水滔々、濁浪洶湧、中心の景は、雄大を通り越して、凄愴を極む。下關より對岸浦口まで江の幅約一哩、汽艇十分時內外に達すべし。江南の下關は、其設備稍々整へるが、江北の浦口は、歷史も新らしく、尙は未成品なりと申すべく、然かも津浦鐵道の終端として現在の設備及び目下着手せられ居る施設のみにても、頗に雄大なるものあり。將來は此の江岸に千五百米突の大堤を築き、長江汽船を寄泊せしめんとすと謂ふ。津浦鐵道の浦口停車場は、誠に堂々たるものにて、巍然として長江の洪流を壓し居り候。支那に於て此の浦口停車場より遙かに規模の大なる鐵道驛は他に尠しとせず。然かも此の驛程どに、地の利を占めて堂々たるものを、未だ見ず氣に入り過ぎて、寧ろ而憎く感じ候必ずしも、長江沿岸に於ける、英人の跳梁跋扈が、癪に障りたるが爲めのみにも無之候。

欵待ざる日本人

江岸より直ちに驛の構內に入る。プラットフォームには、天津行列車が煙を吐いて、上海南京方面よりの客を待ちつゝあり。浦口天津間の直通列車は、相互より一日一回を運轉するのみ。從て隨分乘客輻輳し、一等車の如きは、ボギー二輛を聯結して尙不足なりと見ゆ。午後三時三十分の發車時刻を、四時まで後らして、更に尙ほ一輛を增結せり。客車を增結するは、敢て異議なし。發車時刻を多少後らす事も、亦差支なしとするも、同じ賃金を支拂ひ作ら、日本人は四人詰の寢室に四人も詰め込ませて、西洋人には四人詰めの處を二人甚だしきは一人に占領するを許し、それで毛唐の數が少し多いとて、時間を後らせてまで、更に增車するなどは、聊か日本人として、機會均等の權利を無視されたるに似たり。そこで、車掌に抗議を申せしところ、車掌の曰く『實は貴國のゼントルメン丈けで御一緒の方が、御愉快と存じたるが、然らば何とか都合致し申すべし』とて、流石は支那流の言ひ拔けをして、何とか都合を致し吳れ候。兎に角、支那人の態度は別として、毛唐共が、支那で威張るのは癪にも障り申候。彼等が敢て日本人を蔑視するといふ事は之れ無し、但だ日本人が彼等ほど、支那人に持てぬは、顧みて頗る心外に候。

租稅徵收狀況

京城府大正五年度租稅徵收狀況は比較的良好にして之を他府に比する時は尙幾分の遜色を免れずと雖も京城府としては前年に比して著るしき好成績を示せる有樣なるが五年度租稅合計調定額七十五萬五千九百二十九圓內收入額七十四萬二千五百六十五圓缺損額三千五十五圓收入未濟一萬三百九圓にして此の收入步合九割八步二厘を算せり右の內

	調定額	收入額	缺損額	收入未濟	收入步合
▲地稅	一八七、二四七圓	一八四、七四九圓	二、一六五圓	三三三圓	九八六
▲家屋稅	五五、九五〇圓	五五、二七三圓	五九六圓	八一圓	九八七
▲酒稅	一六、五八九圓	一六、四一六圓	一六九圓	四圓	九八九
▲煙草稅	四二八、九八六圓	四二八、八二五圓	一二五圓	三六圓	九九九
▲鑛稅	九、三九四圓	九、三九四圓	……	……	一〇〇〇
▲雜稅	一四圓	一四圓			一〇〇〇
▲所得稅	五七、七四九圓	四九、八九四圓	……	九、八五五圓	八二九
租稅合計	七五五、九二九圓	七四二、五六五圓	三、〇五五圓	一〇、三〇九圓	九八二

因に五年度の未納額に對しては本月中に整理を了すべき豫定なりと

軍司令官動靜

秋山軍司令官は六日鎭海要塞を檢閱し七日馬山著重砲兵隊檢閱後望月に投宿せり（馬山特電）

山梨中將旅程

教育總監部本部長山梨中將は第十九師團及步兵第八十聯隊に於ける教育狀況視察の爲め同部副官大尉谷寶夫氏を隨へ十日釜山著十二日入京の豫定なるが視察日程左の如し
△五月十一日大邱滯在△十二日京城著十三、十四、十五日滯在△十六日元山著△十八日將津滯在△二十日羅南二十一日滯在△二十四日茂山著△二十六日會寧著二十七日まで滯在△二十八日鏡城着二十九日滯在△三十日鏡城著△三十一日發源著△六月一日慶源より訓戎に至り即日歸慶△二日慶源發新乾源を經て新阿山著△三日慶興△四日慶興滯在△雄基著△七日淸津著△八日淸津を發し十四日神戶着（汽船）△十五日歸京

視察團員寄金
團員の芳志を記念す

本社主催南北滿洲視察團員は過般哈爾賓視察後同地に於ける鮮人子弟の教育基金として金七十六圓八十七錢の寄附をなす事となりし之れを總領事館に托したるが五月五日附佐藤總領事代理より右金額は鮮人子弟教育基金として蓄積し其の利子を哈爾賓普通學校の經費に投じ永遠に團員の芳志を記念する事となせし旨通知ありたり、尙ほ團員諸氏には右の旨を本社より別に通知せざるに付本記事にて了承せられたし

京畿警察署長會議

京畿道管下各警察署長會議は五月中旬開催の筈なりしが目下の處期日は尙ほ未定なりと

玄海灘沖の[illegible]附近航海中甲板上にて小便を爲し居る際船體の動搖せし爲め海中に墜落したる[illegible]

白水參謀長歸任

白水駐劄軍參謀長は七日夜八時五十分龍山驛著列車にて歸任せり

鮮銀總裁の招宴

美濃部鮮銀總裁は七日午後七時料亭千代本に在京城新聞通信雜誌記者を招待せり

甲斐警視赴任期

新任大田警察署長甲斐武一氏は事務引繼其他の都合に依り十五日頃赴任すべしと

鮮銀券發行高

四月二十九日より五月五日に至る一週間の朝鮮銀行券發行高は三千七百七十九萬圓にして正貨準備一千二百九十五萬圓保證準備二千四百八十四萬圓なり

人事消息

▲沃畸陸三氏（帝國生命保險會社課長） 七日夜入京浦尾へ
▲植田榮作氏（煙草專賣局門司支局府中出張所長） 同上
▲中村精七郎氏（鐵道聯） 同上天眞樓へ
▲芳川寬治氏（芳川伯嗣子） 同上
▲小山溫氏（法學博士） 七日夜出京

訂正

七日發行夕刊所報判檢事異動の中左の通り訂正す
京城覆審法院判事 橫田俊夫 補京城地方法院部長
京城地方法院判事 伊藤淳吉 補京城覆審法院判事

南言北語

臨時事件費といふ役人共には結構な題目が潤澤なので各省共競ふて海外視察員を派遣するが▲中にも農商務省は課長技師以上殆ど歐米視察に出かけぬものは一人もない位▲處が足跡一度も歐米に印せぬ者は上山次官と鈴木會計課長の二人限である▲此程課長連會食の席上『今度は一度是非行て來給へ』と同僚一同が切なる勸告▲之れには鈴木君も返答に窮し『海外輸出向の粗製濫造品とは違ふからね』と逃[illegible]して逃げたのはよかつた▲選擧に慘敗した佐々木蒙古王別府溫泉の湯氣の中から相も變らぬ元氣で東京の友に都々逸を寄せて曰く『花は落ちても木は落しやせぬ、木さへ落さにや花は咲く』▲新代議士磯部尙君は八人の子福者だが氏は當選と決るまで娘さん達は每日座敷の隅へ集まつて『お父さんが落選したら田舍に行かなければならないわネ』と囁いで居た▲これは友達のお父さんが政治道樂で破產して一家田舍に引込むのを目擊した爲めで襖越しに聞いた尙君無量の感慨に打たれたさうだ▲が仕合にも當選で家內一同ホット安心したとの事▲此頃東京では『あちらは八時廿分ね』と云ふ言葉が非常に流行して居る▲原因は頗る單純で詰る所は時計の針が八時廿分を指すと云ふと▲針の兩端が下つた形ちになる其處で『締りのない人』何事にもあまい人』▲凡てソウ云つた人を指すのに用ゐられる▲『あちらは八時廿分ね』と云へば『あの方は餘程だらしの無い方ですね』と云ふ意味になるのだ何かな▲鳥渡御注意までに

の巡査が水玉里の某鮮人旅館に臨檢せし際一人の年若き內地人の宿泊せるを認め[illegible]不審の點あるより本署[illegible]

頃主人の得意先なる鐵道官舍某より金物の賣掛け代金を受取りて橫領[illegible]檢事局へ送られたり

◎哀れな一家族の歸鄕 [illegible]れたる金品は本町警察署の指示に依り隨時同家に交付されたりしが尙[illegible]

▲訂正 大正六年五月參日發行京城日報朝刊第參面海州地方法院松禾支廳法人登記公告中第五行目「同郡蓮井面馬山里壹統五戸崔鴻達」トアルハ誤植ニ付左記ノ通リ訂正ス
同郡蓮芳面馬山里壹統五戸 崔鴻達

銅 鐵 亞鉛 鑛區買入
鑛區買入致候 但許可權先願權及新發見共右希望者は直接御申込相成度候
京城旭町一丁目 一〇三番 電話九五五番 三友鑛業事務所
青酸加里 水銀販賣 白上商店

女ボーイ十名募集
十一歲以上滿十三歲迄尋常小學卒業程度の者希望者は本人來談あれ但市內に身元引受人を要す
京城南大門通三丁目 大日本麥酒會社出張所

京城本町一丁目 佐藤牧商店

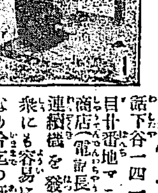
魯桑種子 土佐本場 壹升四圓五十錢 最特撰 四十二圓
魯桑種子 土佐本場 壹升三圓七十錢 特撰 三十五圓
魯桑種子 取引方法 一切前金
忠南鳥致院 朝鮮興農園（振替京城三七番）

秘密ヲ守リ丁寧ニ精々高價御預リ可申候也
櫻谷質舖 京城北米倉町三六（舊兵舍前小路） 電話二八五四番

京日案內
普通 一回前金五十錢 番外 一回前金一圓
▲申込後中止の節は料金返戾せず ▲六回以上の御申込は特に割引す ▲御照會の節は返信附にあらざれば回答せず ▲御照會の節は必ず番號を御記入を乞ふ

普通
◎當分半額 鍼灸按摩治療 本町一丁目龜屋橫入 狩野 14
◎有給男女外務員採用（日鮮人共） 黃金町一丁目 阪田水車製造所 電一三二六 國民興產株式會社京城出張所 78
◎店員募集 年齡十六七歲迄で市內に保證人を要し本人來談に限る 龍山元町二丁目 東屋洋品店 77
▲萬年筆修繕と販賣はウッポヤに 絕大の信用有 電二五二七 振二貳二參 75
鈴木ヴアイオリン 山葉オルガン 本町 ウッポヤ書店 電二五二七 振二貳二參 65
◎見習看護婦入用 南大門通農銀裏 司生堂醫院 79
◎融通 月收の御方へ極秘迅速簡易 立替御報伺又は御來談 京城大和町三の三二（柄澤前） 起六屋 27

番外
京城春川 問合乘 自働車 賃金片道四圓 京城前八時 春川發前八時 ◎京春自働車商會 京城水標橋通り 支配人 松田壽男 電話二一三八番 70
新古ミシン賣買 並に修繕 ◎針油部分品販賣 京城鍾路二丁目パゴダ公園近 電二三三八 楠商店 80

女の腕で外國人より五百萬圓
新機械發見し茲に一ケ年有利な家庭的事業を紹介す
婦人子供老人の暇を利用せられ製造されたマニラ麻眞田の輸出は可驚二千萬圓其四分の一は皆工賃として我國に落ち國富の基をなしつゝあり尙一層此事業を發展せしめんと苦心しつゝありし東京淺草花川戸五三（電話下谷一四一二）丙辰商會及橫濱市常盤町二丁目廿番地マニラ麻眞田直輸入直輸出商近藤商店（電話長三四五五）にては丙辰式マニラ麻連絡機を發明發賣し其作業簡單老人子供婦人にも容易に出來得るとにて好評嘖々賣行盛なり今迄の麻繼とは全然異り該機による時は四五本を一度にドシ〳〵自動的に連絡し得る事とて目覺ましき程仕事捗り收入も麻繼ぎの數倍を得る事確實機械は僅二圓八十錢同商會にては多少共原料麻を分讓し仕上品は永久現金にて引取る由尙詳細は同商會へ返信料封入照會せば無代圖入說明書を送附す失職者不景氣を喞つ者閑ある人資金を有し事業なき人に紹介す又大規模經營の目的の方及び特約店志望者には特に事業發展上特別に相談に應ずる由


活動寫眞專門雜誌 活動之世界 六月號
ヒルム研究號
本文二百卅頁 口繪廿四頁
眞に天下一品 文明出演の エセルアルマン嬢 マクラレン嬢
獨特場面集 一字千金 創作以上の興味 研究資料
一冊定價廿五錢 東京市本郷森川町一、振替東京三二一三六番 電話下谷三四三八 活動之世界社（切手代用不苦）

飲めば遠く若くなる
天下一品 百歲 服用廿分后必ズ奇効ヲ起ス
本品はドクトル荒井作先生の苦心創製されたる靈劑にして消化營養補血に特効ある貴重主成分のみを配合したる完全無類の强壯營養劑なり
消化不良、食慾不進、神經衰弱、陰萎、精力性慾の減退其他一般衰弱性の人は必ず其効あるに驚くべし
本品は錠劑にして一種の香味を有す
發賣本舖 百歲商會 東京市本郷區眞砂町卅三番地 電話下谷四三〇八番 振替東京三五五五二番
有名藥店にあり
定價半月分金一圓 試劑二十錢 送料八錢、二錢
販賣御希望の方は御申込あれ

資本金壹百萬圓
京城 株式會社 漢湖農工銀行 支配人 遠山熙
不動產抵當ニテ長期低利ノ貸出致候
支店 開城、春川、大田、江景、公州
所在地 淸州、忠州、論山、鐵原、鳥致院
普通銀行業務は確實親切に御取扱可申候

……て毎年春季は野に畑に……若芽未だ一寸も出でざるを菜先に競ふて摘みとり補食に供するは殆んど毎年の……に移住するもの例年の比にあらず之が救濟法としては……當局者と協議し適……

……面九十五戸四百廿二人▲美濃面二十二戸……▲蓮坪面四十六……十七戸百二十七人……

……ひたる東洋……會社所有汽船第……丸に便乘せし同船機關長多々良判平二女滿子は（五）父に助けられ……

◆奈良の東宮殿下

—七日は大阪府下の—

諸帝陵御巡拜

奈良に御滯在中なる東宮殿下には七日午前九時御旅館奈良倶樂部出御、同九時二十五分奈良御發車同十時二十分道明寺驛御著、允恭天皇陵、應神天皇陵、譽田高等小學校、孝德天皇陵、推古天皇陵、用明天皇陵、廐戸皇子墓並に叡福寺御巡拜あり午後四時十分古市驛御著五時二十分奈良に御還啓相成りたり、此日安閑天皇陵、清寧天皇陵、仁賢天皇陵、仲哀天皇陵、雄略天皇陵、敏達天皇陵へ

◆侍從を差遣 せられたり叡福寺にては奈良朝以前の寫經なる高屋連枚人及び紀吉繼の墓誌並に聖德太子一代の畫像等を台覽に供せり、尚殿下には八日は午前七時二十分奈良御發中八時四十分大阪府下住吉驛に著住吉神社にわ爲、同社にては津守男爵家所藏文寶並に秀吉時代前後の堺港の發達を知る可き史料文寶を陳列し特に津守家の先祖が後醍醐帝の御時比叡山にて

◆能樂を天覽 に供せし際の文寶を御說明申上べく同社にて舞樂を台覽遊ばせらるゝ由當日の舞樂は伽陵頻、萬歳樂、陵王等なりと、同四十分同驛御發四十九分堺御著仁德天皇陵反正天皇陵御巡拜堺驛より御乘車諏訪の森驛御下車濱寺小學校に成らせられ午後一時十五分より濱寺公園に於て

◆網引を御覽 に供す之に從事する漁夫は高石濱寺兩村より選拔したるもの陸上は汁村並に堺市小學の模範生を選拔して之に任し殿下の御野立所は高石濱寺兩村の境界線にて其御跡に記念碑を建設すべし、それより大鳥神社に成らせられ午後三時二十分濱寺驛發五時七分奈良に御還啓あらせらるゝ御豫定なるが此の日履中天皇陵に侍從を御差遣せらると（大阪特信）

●徂く春を名殘惜しみつ

句佛上人京城を通過して內地へ

涙誘はるゝ旅順の戰蹟見物

四月二十四日、釜山に著いて以來法要に、親教に、訪問に、講演に終日奔走日も維れ足らぬ匆忙裡滿鮮巡錫二週日の旅を了へて七日午前京城通過歸山の途にある東本願寺管長大谷光演師を車中に訪ふ法主の居間なる特別車内の殺風車に導かれて行くとそこには黑紋付に仙臺平の袴といふ瀟洒な服裝の句佛上人がゆつたりと窓に倚つて物靜かな

♣晩春の朝 の野面を見詰て居られたそして傍に控へた隨行員であり又俳句雜誌『懸葵』の同人である沼役濤、粟津水棹の兩氏との間に水原近くを駛つてゐる列車の窓硝子に映つては消ゑてゆく沿道の風色を指呼して稱りに俳談がはづんでゐたその中へ這入つて行つた記者を見るなり、いつもの溫雅な、親しみのある調子で『さあ、お掛なさい、どうぞ』と碎けて迎へられる、此の場合法主といひ、管長といふ儼めしい感じは

♣吾々の頭 の中から悉く發散して唯、何んとなく懷しかまれる句佛上人といふ親しみの多い名前だけが殘つた『朝鮮も僅か見ないうちに變りましたね、木の色も草の色もすつかり青くなつて大へん美しくなつた』慌ただしく昔づれ倉皇として老ひ行く朝鮮の春を名殘り惜しむやうに、急行列車が默つて通り越してゆく小さな驛の構内に、まだ散り殘る色褪せた櫻の花のハラ〳〵と舞ひ落つるのを眺めながら、感う言つた上人は夜濤、水棹の兩氏を顧みながら、いろ〳〵話される『何をいふにも非常に切詰めた日程に動いて來た旅だものですから些しも纏つた感想といふやうなものがありませぬ、滿洲と朝鮮は

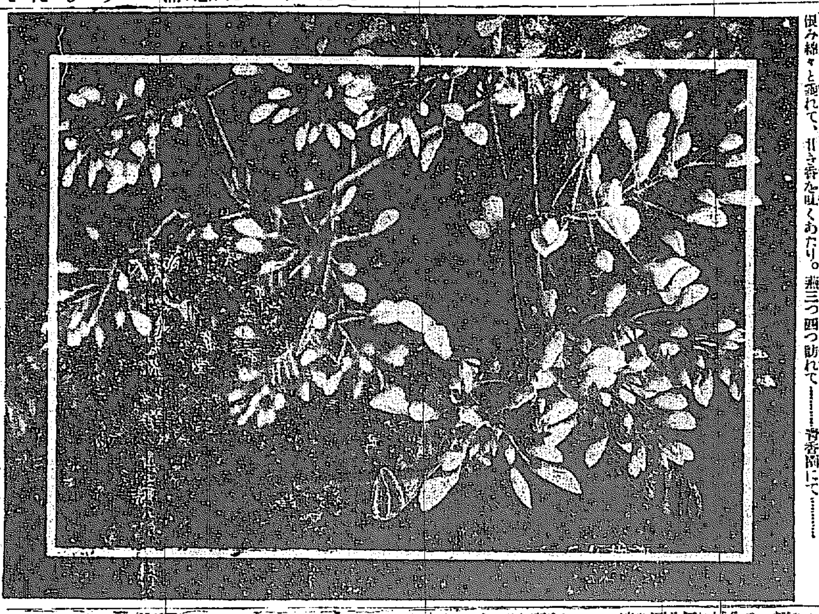
♣同じ大陸 でありながら滿洲の方がすべて大きいやうな感じがします私が朝鮮の土を踏みました時の第一印象は『巨きい』といふ事でしたそれが北に行くに從がつて強くなり更に滿洲に入つてから一層深くなりました、朝鮮の山野に煙管を啣へて悠々と歩いてゐる白衣の人にも多くの句意を汲む事が出來ますが、私はそれよりもあの廣い滿洲の曠野の到るところに働いてゐる灼熱した赤黑い手足の所有者、土から生れたやうな苦力を面白いと思ひました鴨綠江の橋を渡ると直ぐに白衣の人に代つて淺黄色の支那人を多く見たときには國境といふ心もちが泌々と味はれたのです、奉天では北陵を見ましたが、中々いゝ所で年古りた松の巨木などがあつて京都邊りの古い寺とどこかに似た所があるのにある懷かしみさへ覺わました、旅順では東雞冠山から北砲臺の戰蹟を觀ましたが案內者の說明を聽き〳〵當時の慘狀を追憶しましたときは知らず識らず胸が迫つて涙ぐまずには居られませんでした旅順では又失意の人

♣肅親王を 訪ひました、が、その生活の質素なる、訪問者に接すべく居室である二階から降りるに輿に乘らねばならぬ不自由の身體を持たれる親王のいた〳〵しい姿を見ては何んとも言へぬ一種の感に打たれましたがそれよりも一層私の心を動かしたのは、親王が私とは初對面であるにも拘らず舊知の如く親しまれて、私に賴るやうな縋がるやうな、やるせない今の境遇を愬へるやうな心もちを示された事です、親王には一刻でも多く

♣私と一緒 にゐたく、私も又時間さへあればもつと悠くり話してゐたかつたのでした』と感傷的な上人は不遇の肅親王に對する同情の込み上げて來るのを抑へるやうに眼を伏せた

●發見された水雷と砲彈

昨年七月中雄基警察署にては雄基港內に於て水雷並に砲彈を發見し危險の虞なきや否やに關し鎭海要港部に鑑別方を依賴する所ありしが今回鎭海防備第十八驅逐隊村雨、朝霧の兩艇入港と共に檢査を受けし結果該水雷は外部に錆を生じ海水浸水し居らざるを以て內部裝塡の火藥及び電池信管等の異狀はなく火藥には明治三十五年海軍省下渡火藥を記したる貼紙ありて明治三十七八年戰役の際我が海軍にて沿設したるものと鑑定し海軍教育標本の良材料なりとして日高司令官に引渡せり尚砲彈は演習用として作製したるものにして內部には土砂を裝置しあるを以て危險の虞なしとの鑑定なるより目下雄基警察署に保管中なりと



◇藤の花 一日二日の春の雨に桃も櫻も花ちり果てて若葉の香りゆかしき中に氣高く藤は咲き出でたり、ミルク色なす白藤や或は名に負ふ藤紫、いづれも艶なる花房長く、春逝く恨み綿々と垂れて、甘き香を吐くあたり。燕三つ四つ訪れて……青香園にて

●岩崎男

百萬圓寄附

大阪慘事に就き

岩崎男は大阪安治川の慘事に就き百萬圓を市長の手許迄提供し死傷者に對する弔慰金救恤金及び公衍す復舊費として之れが分配方を委託せり（大阪特電）

●無分別の少年 去月十一日平壤署……る中島町一丁目の某金物店に雇はれ居りた……中島軍雄（一八）と云ひ本年二月十日……を窃取し其金にて買ひ……主に發見され解雇せられたるものなる……社會の恩惠を受け生活を續けゐた……家は是迄同情ある……梅田驛迄の切符を買ひ其の餘りの金は途中の旅費とし六日朝俘子三名共南大門驛出發歸郷したりと

◆鮮人同化は斯くして成らん

—故青木折造氏の逸話—

關屋學務局長談

『先生〳〵今日のことは此の組が惡いさして下さい』とおとなしい某が云つた。けれども余は猶斬つて居て返辭もせなかつた。『先生〳〵、どうか許して下さい。惡うございましたから』某がかう言つて、到頭の言葉ないつた。予の心に嬉しかつた。然し倚『眞に悔改めの心にまでよ』と斬つた。

『神よ、奴を呼び給ふた御召は今日の事をなさせよとのことでございますでせう、あゝ父よ願くば今私は生命を失ふてもよろしう御座いますから……どうか眞に悔改めの心を彼等に起させ給へ』と祈つて居た。熱い涙はとめどもない。そこここで嗚咽するのも聞ゐる。

暫くして眼を開いて見たら、生徒は皆机の上に顔を伏せて啜り泣きをしてゐた。余は黑板の後ろにある木の鞭を持つて來た。してあゝ皆よ。皆の惡いのは私の惡いのだ。私の教へ方が惡かつたのだ。で、私はお前達を叱るまい。私自身を叱らう』と、鬼のやうに、あの太い鞭で私の腕を力のかぎりに續けさまに打つた。（此のとき自分は殆ど無意識であつた）『力のかぎりよ……』と打つ。

生徒は總立ちになつて突進して來た樣子。と思ふと余の左右の臂は數十の手で緊しくおさへられた。余は『離せ〳〵』と暫くからかつた後、眼をとめてあたりを見た。彼等は雨のやうな涙を顔一杯に流して、言葉もなく、『先生〳〵』とばかり。『あゝ、よし〳〵』と心の內。余は左の指の傷を某か指の先きでおさへるのに氣がついた。やつとの事で予の手から鞭は奪はれた。生徒は席にかへつて席を揚げて泣く。某は唯一人予の右の手を握つてからだをよぢつて辭を惜まず泣きわびてゐる。やつと手を離させるとそのまゝ床の上にすわつて兩手で頭を抱へて泣いた。甲乙は身を震はして泣いた。予は哀しい中にも嬉しくなつた。『神よ……』と心の中から叫んで、『皆さん、私は嬉しくなつた。あゝ、皆はよい心になつた。』予、今日は皆の元日、元日にこのよい心を迎へて……一年を美しくするのだ。あゝ、もう私は叱らぬ。『早く道具を片つけて歸る用意』と云つた。百萬貫の重荷が肩から下された樣に予はシゲシゲと生徒を見て、面を俯ふて泣いた。

『おれは內地人よりお前達を愛する……おれは今斬つた……』

『おれはこうして教師になつた……』と斬の輕い心持は哀みの涙に浮くやうに話して教室を出たのは三時近かつた。痛い手を提げて見て、今更に十字架が偲ばれて眠るまで眼底は涙に消ちて居た。

昨發後二三の讃美歌と祈りを捧げて、この身の上に與へられた祝福を謝し來つた。

あゝ予は最後まで……眞の教師でありたい、眞の彼等の友でありたい、あゝ、予を誘ふ者よ、予は愛き者なるぞ。彊き者の前途……あゝそは只父の御助けによりてのみ思ふことを得、また有ることを得るのである。

弱き我、哀みに恭したる五年の我に、新年と共に祝福を受くる何の多きぞ。（なげけり）

訂正　前回に青木教諭は山形縣の人とありしは山梨縣の誤につき訂正す

●大谷光演法主釜山出發

大谷光演法主一行は七日午後七時釜山著鐵道ホテルに休憩せるが釜山の重なる信徒、婦人會員等プラットホームに出迎へホテルに於て法主の接見あり八時三十分新羅丸にて歸還せり（釜山特電）

●土藏破りの大賊

本年三月頃より釜山警察署管內に於て盜難に罹るもの多く其被害尠なからざるより其筋にて極力捜索に努めたる結果去月廿四日に至り端緒を得て中島町二丁目朱運五（二二）同土城町二丁目林德洙（二二）同大新町金有伊（二九）、同中島町一丁目朴文五（四九）同町二丁目金福紛（四二）と云ふ五名を逮捕したるが何れも無職の惡漢にして宋、林、金の三名は專ら窃盜を働き朴、金の兩名は贓品の運搬及び販賣に當り五人共謀して釜山本町三丁目丹羽準方の倉庫を破り學布二十五反此價額百五十圓同十六反此價額四十八圓及び水晶洞鶴谷辰藏方より上等衣類約百二十圓其他數十個所を荒し三日迄に被害の明白せるもの丶みにても既に七八百圓に上り近來稀なる大賊なるが贓品は總て金海其他の方に運搬して賣捌き居たる爲め犯人捜索に非常の苦心を爲したりと（釜山）

●六名行衛不明

北沃溝郡米面の沿岸にて無人の帆船一隻を拾得して四月二十日群山署に屆出でたる內地人あり之れが噂を聞込みたる忠南保寧郡熊川面外煙島の者が該船を取調べし結果本年三月十四日外煙島中敬龍外五名が乘組み

●衝突して難破

乘組五名は辛くも上陸

全南麗水郡巨文島德村里朴仲元の所有帆船百石積みに五名乘組み四月二十八日慶北鬱陵島北面に寄港せんと航行中風浪に襲はれ南面道洞里の東方二十町の沖合に假泊中錨綱を切斷され岩角に衝突して船體は難破沈沒し乘組員は辛くも上陸せしが損害は船體三百圓積荷三百五十圓の見込みなりと

●島流しの刑に

忠南瑞山郡東面狸養里在住儒生張在學一派は頑として納稅の義務を果さず治安を妨害するより過般遠流の刑に處せられたるが其子張和鎭も同樣の廉を以て一ケ年間居住制限の處分を受け二十八日同地憲兵保護の下に濟州島に送致したり

●四力士東方復歸運動

東方後援會の決議

東方後援會は大相撲五月場所番附に從來東方なりし新進力士大湖、清瀬川、大の高、稻の穗の四力士を西方に廻したるは協會の專斷に出で東西の權衡を破るものとして七日午後二時協議を爲したるが結局右の四力士を今場所より東方に復歸せしめざれば優勝旗爭奪戰を中止する事を決議し協會に談判中なるが場合に依りては初日は延期さるべしと（東京特電）

●舊惡顯はる 全南羅州郡公山面生れ鄭在九、李行順等十餘名は明治四十一年十二月同四十二年三月全南暴徒の群に入りて羅州良谷面蘂山里金炳璡雇人李順奥（一九）同公山面橋邑里金泰五（四五）の兩名を殺害し金圓を強奪したると最近に至り露顯し二名は自宅にて逮捕され榮山浦分隊に拘引目下餘罪取調中（光州）

●判決言渡期日

鐵道工事請負不正事件

朝鮮鐵道工事請負不正事件聯合審判に對する判決は來る十日京城高等法院に於て言渡あるべし

●毆られて頓死 住所不定の漁夫金石崇（二三）は去月廿六日午後九時頃平南龍岡郡南卒鴨の酒幕にて京義道生れの金淳文（三五）黃海道生れの金龍洙（三六）と飮酒の上歸途二名を相手に喧嘩を始め二人より毆打せられ家に歸りて其の儘床に就きしが廿八日に至り鼻口より多量に出血して死亡せしより附近の者が騷ぎて斯くと甑山憲兵派遣所に屆け出で憲兵醫師同道にて檢案せし結果前記傷害に基因する死亡と判明し加害者二名の行衞を搜索中なり

●木橋の火事 黃海道瑞興郡禾回面新幕より遂安郡に通ずる三等道路載寧江の上流に架しある市二間長さ十七間の木橋より四月二十七日午後十一時半頃發火し居るを折柄通行の新幕憲兵分隊の補助員が發見し憲兵出張消防組を集めて消防したるも容易に鎭火せず已むなく中半部より切斷して消し止めたるが爲めに右岸中半部燒毀の部分のみにて損害約百圓の見込なりと因みに同橋は架設工費四百圓を要したるものなりと

●居候は曲者 龍山榮町芦澤つや方に寄食中なりし伊勢秀貞（二七）は三月以降四月中旬頃迄に數回に同家所有の布團衣類等價格八十六圓餘のものを窃取又は橫領して入質し得たる金は遊興消費したること發覺し龍山分隊に引致取調べの上裁判所へ送らる

●自轉車に觸る 京城鍾路一丁目居住吉川甚助（三一）が一日午前八時二十分頃鍾路四丁目を自轉車にて疾走中同町尹相顯の長男某（二）が俄かに飛出し來りて橫切らんとして車輪に觸れ跳ね飛ばされ頭部に打撲傷を負ひたるより應急手當を加へたり

●高木德彌氏慶事 京城商業會議所議員高木德彌氏は今般佐竹定一氏と養嗣子の婚約成り七日夜自宅に於て結婚式を擧げ次で花月に官民百五十餘名を招待し盛んなる披露の宴を催したり

●織居夫人の葬儀 織居加一氏夫人あさ子の葬儀は七日午後四時南米倉町基督教組合教會堂に於て執行されたるが會葬二百餘名堂に滿ち頗る盛儀なりき

フースヒー　十一日發行

薩摩建國論　半井吹城

長篇小說　鈴子の戀　田山花袋

文壇の大家田山花袋氏が心血を灑げる大作にして原稿二百枚の長篇本號より連載し初む御愛讀を乞ふ

東京澁谷　フースヒー社　振替東京二四五八四番

子爵　會計檢査院長　田尻法學博士著

簡易生活

我が國民現下の一大警鐘を喝け

忽ち三版成

汝の贅澤なる生活を去つて堅實なる簡易生活に來たれ—蓋時代的大教訓

四六判美裝一冊　定價金八十錢（送料金八錢）

東京市本鄕四丁目　文武堂　電話下谷一五一三　振替東京九二五七

營業案內　無代進呈

農具　開墾用、耕耘用、其他各種、製繩機、製莚機等

蠶具　飼育、製絲、消毒、檢査用各種、

肥料　大豆粕、過燐酸、硫酸アンモニア、油粕、人造肥料、其他各種

◎右多少に不拘御注文の程希上候

◎定價表は御一報次第送呈可仕候

京城南大門外　朝鮮勸農株式會社販賣部　電話四〇三番・振替口座京城三七八番

五月號　養鷄雜誌　家禽界

養鷄病蟲害の驅除　須藤博士　養鷄富國策　松平場長　履歷活用法　木暮場長　簡易去勢法　本誌記者

▲年利百五十圓小學教員の養鷄　▲年中大儲けある孵卵業經營法　▲趣味實益に富める家庭養鷄欄　▲流行鷄の飼方　▲各種小鳥飼方　▲鷄界今天一坊

一日三厘で十分な多産飼　小須賀生

二倍增益舍飼法　實驗大家

強弱な健全育雛法　發表

本號廿一錢　半年特別號二部を含み金一圓五十錢　見本箇號十二錢

東京市神田仲猿樂町　振替東京一四七九〇　曉聲社

各種萬年筆即時修繕　京城旭町二ノ六　東京パイン萬年筆出張所

株式會社第一銀行京城支店

資本金　貳千貳百七拾萬圓

積立金　壹千〇五拾五萬圓

京城本町二丁目（振替貯金京城一一番）　支配人　西村道彦

銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候

內地滿鮮並に歐米樞要の地に爲替取引先有之候

明治火災保險株式會社代理店事務取扱申候

東京藥學專門學校教授執筆

東京藥學講義錄　全九冊二千三百頁全部完成　特價五圓　分冊七十錢

藥學研究藥劑師志望者にて通學の餘暇なき者は本講義錄を讀め內容豐富簡明快初學者にも修得容易　規則無料　見本進呈

東京神田三崎町三ノ一　東京藥學會　電話本小石川二九一一　振替東京一三一七五

怒濤の月

小林蹴月作　武内桂舟畫

百五十八　最善の努力『卅一』の一

幸三郎としては、何と物事に理窟をくツ付けて見ても、畫本位であらねばならぬのである。境遇の上から來るさま／＼の支障や感情や、困苦なる事情は、假令何れほどあつたに爲ても、が、畫の事を忘れ、畫の事を拋擲して、その以外に自分の生命も目的も興味もあるべき筈はないのだ。煎ずる處は無聲の大詩人となつて、自己も立命の境地に入り、社會も許して呉るやうにならねばならない。それには什うしても畫家の登龍門と云はるゝ文展に出品して、自分の腕を天下に問ふのが、最先の捷徑であるから、是非共此の秋までには、十二分の精力を籠めて、會心の作を成就する……此の立場から考へて、幸三郎は、勇奮一番花泉男爵家の金屏風引受くるに至つたのである。處が、思ひがけなくも、彼の日花見遊に於て、袖子から境遇上の事を何くれとなく話しかけられ、それに應答して居た事のそれが、運轉手塚本の爲めに邪推せられて、何か袖子と自分との仲に怪しい連鎖でもあるかの如くに見做された丈ならばまだしも、その事が因となつて崖から轉げ墜ちるほどの大格鬪を惹起し、而もそれが爲めに許婚の絹代と奇しき邂逅の機會を得た次第であるが、にも拘はらず、絹代と彼自身との心と心とは、全然互ひに氷釋せられずに了つたのである。』

其是の爲めのみではあるまいが、幸三郎の病氣は、重くはなかつたが案外に長引た。忽ちの間に十日餘りを過ぎたので、幸三郎は、夜の目も合はぬほどに心を痛めた。五月雨の頃に入ると、繪の具に使ふ膠が腐りやすくて、墨の乾きが遲くて、加之に仕事が幾倍か遲りにくゝなるからである。かと云つて、今更男爵家の手から引離れて了へば、袖子が同胞からも及ばぬ親切を盡して、自分の爲めに成功させやうと思つて呉れて居る彼れ程の苦心を無に爲るばかりか、第一自分一個の微力では、畫の土臺となるべき金屏風―銀屏風は格措き、大粋に張り込む畫絹の資本さへも頗る覺束ない現境なのである。此の點に於て、彼は飽までも男爵家の金屏風に對して、大なる未練を執着とを打切る譯に行かない。

心變りの爲た絹代の事、自分に金屏風を描かせて呉れる代りに絹代を到頭自分の手から拐ぎ取つたに等しい男爵の事、小さな意味から云へば自分を讎仇と誤解し、色眼鏡をかけて自分の行動を監視して居る運轉手塚本の事、それからそれと考へればなか／＼畫筆に墨を染むる所の段ではないが、併し、幸三郎は、此の難關を押切つて、大作を成し遂げる所に未熟ながらも自分と云ふ一個の無聲詩人が存在して居るのではあるまいかと思つた。藝術の獨立……貧乏や失戀や他人の反目や、そんな事に精神を囚はれ居るやうでは、到底獨立した純藝術的の作品が出來るものでないと思つた――。周圍皆敵たれ、我には唯一人の我あるのみである男爵家の金屏風に畫を揮ふのではない、百世に遺すべき天下の金屏風に理想純潔の城を築き上げるのが自分の本分である、病氣も此の位になつたらば、明日からは是非共男爵邸へ出かけて、此の最善最美の目的を達すべく努力せねばなるまい。

或る時は愚直に過ぎ、或る時は狂的に失するのが、幸三郎の特色であり、又缺點であつた。彼は絹代が心變りの爲たらしい態度を實見して以來、却つてその反動的亢奮の爲めに天職の畫に就いては、十倍の勇氣と熱心とが加はつて來たのでる。

「今に見よ、天下に轟くほどの名畫を作つて見せるぞツ』

誰に言ふのでもないが、病氣で寢て居る間にも、此の事のみを言ひつゞけて、そして金屏風の上に揮ふべき畫題に熱中して居た。

雄大に壯絕で、其處に無限の神秘的の共鳴と深遠の意義とが含まれて居なければ、眞の畫ではない。寫實と空想とを離れて、是非共何等かの徹底がなくてはならぬのである。故人の所謂幽言と氣韻とは、筆の技術以外人格の表現なのである。雪舟啓書記達の畫が探幽や文晁と違ふ所以は其處に在るのではないか。好し、僕は飽迄その心持を以て今度の畫を成就して見せる』

幸三郎は、眞個此の心持丈は、常に頭腦から忘れずに居たのであつた。苦しみに苦しみぬいた揚句、彼は一夜の夢に五浦のお節が身を躍らして逆捲く怒濤の只中へ飛び込むだ姿をまざ／＼と夢みた。覺めての後、彼は決然として褥の上に跳ね起きたのであつた。

□筆の友句會（第三回）

春の夜や逍遙くさもなく河岸の街　青丘
蛙なく池尻村や灯しけり　同
春の夜や艀舟に見ぜたき瓶の花　蓉堂
産室の灯明かく／＼と蛙かな　同
旅人に宿教へけり春の宵　古觀
蛙なくや板塀續く雨さなり　同
春の夜の寄に片寄す裁縫物　山民
雨の日ゐ鎖せる木戸や鳴く蛙　同
猫鳴いて耳かたむける春の夜　華垣
生花の障子に寫るや春の夜　同
何會の相談會や春の夜　北旦
劇り殘す斐がオカシとなく蛙　同
電話來て疑心晴れたり春の夜　竹水
街の歴此處迄聞ゆ蛙かな　同

□水原華城會俳句（第四十一回）主評肥後不盡庵百蟻宗匠撰

卷中佳作
鶯の醉損きこまん蓬餅　葉堂
島の聲や女の唄ひこゑ　五曉
散る花を浮べて水の行方哉　同
藤の花見越の松にからみ鬼　知足
柱にまで香るや鄕の蓬餅　宙外

追加
散る花に心の底ぞ喚らるゝ　百蟻

客評浪花不二庵月人宗匠撰
逆列
散る花の名殘しもやまぬ旦かな　秋風
醉や操ながら喘く牛の鼬　如瓢
草餅や孤兒に情の一包　秋風
庭十歩狹きに藤の花の數　宙外
雉子啼や手の平程の山畑　葉堂
水禎の黄昏おそし藤の花　五曉
散る花を拜べて衆の行方かな　同人
纔てくいらん提し二人連　華川
穏な出て草餅つまむ晴哉　葉堂
花散るや黄昏深む鐘の音　秋風

第十
鵙や島の女の唄ひ聲　五曉
雉子ほろゝ雨に巡行孤村哉　同人
倦人の袂に花の吹雪かな　同人
麗かな水に小魚の黒みかな　宙外
白藤の闇を破りて曉の鐘　如瓢
草餅に寛ろぐ膝か團居哉　五曉
麗かに打つ豆腐の大皷かな　葉堂

三光
人　そよ風にゆるゝ灯や藤の花　五曉
地　雉子啼や松笛びさく山の家　葉堂
天　反橋もかくれて藤の盛り哉　同人
加筆
藤咲くやちよろ／＼水のさゝにごり　判者
喉や隣はなるゝ島の聲　七十二翁
夏の夜も近しと知るや草に露　月人

新刊紹介

▲農林空地の利用（佐々木甚七郎著）本書は多年職を農會に奉ぜる著者が各種各方面の實地に就き奬勵施設及指導せしものを基礎とし空地利用の無形的有形的利用宅地堤塘、路傍地、溜池土揚敷地、水田、桑園茶園、果樹園、池沼、江湖、干潟等の利用及神社佛閣境內地の善用等の各項目に亘り實行の簡易効果の確實を主として空地の利用法を記述せり農村は本書に依りて益する所多かるべきなり（一圓五十錢東京々橋南傳馬町一有隣堂）

▲第二回海外派遣官報告集（第三）本書は時局に際し本邦商品販賣擴張の見込ある海外有望市場調査の爲め大正五年九月より約六箇月の豫定を以て派遣せられたる本省各海外派遣官報告中露國、北米合衆國、歐羅巴英領海峽殖民地。英領印度、蘭領印度方面に關するものにして本年一月十九日より二月十九日迄に到着せるものを收錄せるものなり（價不詳農商務省商工局）

▲アダム、スミスの帝國主義觀（行政裁判所評定官關口健一郎著）本書は英國經濟學者ニコルソン氏の原著を飜譯せるものにして十六章に亘り英國をして財政、經濟、植民政策等に關し經濟上に立脚して富國强兵の實を擧げしめんとせるアダムスミス氏の帝國主義を氏の著書に依りて論議せるものにして我が國現在及將來の世務に裨益する所少なからざるべし（一圓三十錢東京神田仲猿樂町巖松堂）

▲圍碁勝敗の一手（四段高橋讀敬著）著者多年の研究に諸大家の秘傳を參酌して一局一手の要訣を會得せしめんが爲め散漫に陷るの恐ある全局の講評を避け專ら一部面を主として死活攻防に其の生命を左右すべき所謂最後の一手を詳說せり即ち對局上先づ知らざる可らざる要諦を說けるものと謂ふべし（六十錢東京日本橋北鞘町一〇大阪屋號）

▲農業講演集　本年一月水原農林學校內に於て總督府農商工部の開催せる第一回道農業技術員講習會の各講演を蒐錄せるものにして朝鮮農業法規（八尋生男）水稻栽培論（向坂幾三郎）朝鮮農具論（同）品種改良論（武田總七郎）蔬菜及果樹栽培論（野本惇三）蠶業概論（宮原忠正）朝鮮の畜産（沿崎行利）農產物簡易加工法（同）畜力の利用（菊地恆行）朝鮮に於ける肥料要務（上杉輔雄）重要なる病害（中田覺五郎）の十二講を收む農業教育家並に實際家の師友たるべし（五十錢京畿道水原郡日洞面高等農林朝鮮農會）

▲倫敦の女（小日向九三著）倫敦では外人相手の賣笑婦を俗に稅關さと稱して居る本書は佛蘭西生れの一處女が日本人專門の稅關女となるに至つた淪落の經路と其の渡に於ける彼女の手記の一部を纏めたもので日記中には匿名を以て現在日本の顯官、有力者等が同地留學中の裏面を忌憚なく描いてある彼女の御厄介になつた事のある日本紳士連中が本書を見たらば腋下に汗するを禁じ得ぬであらふ（三十八錢東京日本橋區通油町二ノ二須原屋）

▲稼穡傳（高橋淡水著）農家稼穡の模範を都人士に知らしむると共に農村青年の自覺奮起を促さんが爲め船津傳次平、林遠里、中村直三奈良專二、石川理紀之助五氏が農村開發に努力せる功績並に其の性行を詳述し興廢及び結論を以て之を首尾す農村疲弊の朝日に高きの秋に當り本書の如きは實に農村に對する無二の精神的寶等輸たるべし（五十錢東京麹町平河町五番陽堂）

▲米麥品種改良法（兒波定治著）外國に於ける米麥增收實例、純系淘汰法、人工配法等の品種改良法、品種退化の原因惡變の豫防種子の採り方等に關し學理實際兩方面より之を講究し平易簡明に其の要領を記述せり米麥增收上實行の易さと効果の大なるとに於て品種改良に優るものなりと聞く農家の好個伴侶たるべし（四十五錢東京神田錦町三の八農友社）

▲大阪商船航路案內　航路の栞、各港要誌、乘船諸注意、連絡其他の部門に分ち且つ幾多の寫眞及び地圖を配したり同社汽船に依る旅客には無二の案內者たるべし（非賣品大阪商船株式會社）

□通俗世界全史の豫約　坪內博士の百餘千頁の精品ともいふべき本書は正史に小說の妙味を加へたる未曾有の西洋史なるを以て苟も一般國民の嗜讀に適し非常の好評を以て迎へられしが今回全部完成を機とし新に積四冊を追加して全部廿冊となし再豫約を發表したり見本を要する者には東京牛込早稻田大學出版部より送呈すべしと

子爵小笠原長生序文
學習院教授服部他助新著

恩師乃木院長

四六版四百二十頁　乃木大將肖像（コロタイプ版）並著者撮影寫眞版數葉挿入
上製總クロース金文字美本定價金一圓八十錢並製金八十五錢　郵稅各八錢

再版出來　青年子弟德性涵養無二の良典範　學校職員育英薰陶隨一の好指針

本書に對する欽仰贊嘆の聲を聽け!!

▼伏見乃木神社建設者村野山人曰く　これまで乃木大將に就て隨分種々の著書世に出で候も如此他に類なき好個の著書を相見不申候

▼某海軍中將曰く　明治聖代の精華として永く士人の典型を後世に遺されたる故將軍の高風殊に聖旨を奉體し子弟の訓育に盡瘁せられたる實相滿卷に躍如たり

▼一教育家曰く　此の如き有益なる著書を何故疾くに公にせられざりしにや著者の緒言に於て此書に掲出せざる分非常に多量なるを知り之等の分も速に公にせられんことを切望仕候……第一章を讀み候のみにて從來己が職務の發展せざりし原因明白と相成り自己の半生が僞善多かりしことを自覺し慚愧の念に堪へ不申候

▼學習院出身者曰く　『坊間の大將傳と異なり近頃痛快なる感起り候地下の閣下も定めて御滿足の事と存候是に依りて食ふ爲めの教育家は覺醒せらるゝ處多大と信じ申候』『此書は私に教育といふ事に就てこれ迄讀んだどの書よりも感興を起し覺醒を與へてくれました私は教育家になつて見たいと思ひました』『私は每頁の文章も每頁の辭句に悉く無限の教訓を得ましたことを感謝します實は一日に讀み盡し度い程面白くてたまらないのですが私は小供がスツキーツを惜む樣に惜んで讀みました』『私共は此書を手に入れた夕方から四五人で互に讀むに從ひ興味益々加はり終に夜半過ぎ讀み了り候而して其の時得たる感興と教訓とは筆紙に盡し難く候』『我等多年乃木院長を知るものも教育家としての乃木院長の特色を此書に依つて初めて了解仕り今更ながら院長を追慕する激烈なる情緒心胸に湧き申候』

好評如湧
發行所　東京市京橋區日吉町　民友社　振替口座一三一〇〇
賣捌所　京城大平通一丁目　振替京城三〇〇番　京城日報社代理部
取次所　京城本町一丁目　振替京城二五七三　大阪屋號
京城本町二丁目　振替京城二四五四　巖松堂

質　堀佐營業所　京城黃金町二丁目入（永樂町停留所北）電話六三九番

最新刊　書名　著者　定價
大正六年一月現在 朝鮮總督府職員錄　總督府編
鐵及銅の壓延作業法　布目四郎吉
工場會計　吉田良三
懲齋法律論文集　森作太郎
婦人農業問題　稻田昌植
婦人の爲に　岡樋松太郎
增補家庭醫學　糸左近持
實用新式戸板裁縫全書　戸板關子
北京官話實用支那語教本　本田滿人
死の蔭に　德富健次郎
當世百道樂　堀內新泉
三角法撰絕問題解義　宮本藤吉
難に易き算術の解方　岡田好一
訂正實用計算法秘傳　佐々木政吉
手數のいらぬ珠算の秘訣　同
新らしい算術難問題學び方解方　松村定三
解說要本法華經　行者日運
人魚の嘆き　谷崎潤一郎
僕の學生時代　脇白太郎
俳諧讀三佳書　伴蒿蹊
少年修身まごころのお伽噺　藤川淡水
お伽十二階　鹿島鳴秋
京城本町一丁目　電話六八・二六六番　振替京城二五七三番　大阪屋號書店

寫眞　寫眞出張撮影　寫眞銅版、亞鉛凸版　最も熟練せる技術を以て最も廉價に迅速に可成懇切を旨とし御高需に可應候　京城日報社寫眞製版部

內科　小兒科　院長上京中の處歸院す　京城櫻井町　池上醫院（電一二七一番）

比較は最良の撰擇法なり!!　サクラ正宗　サクラ正宗
京城明治町二丁目　山邑京城支店　電話四一八・四四五・九四番　振替京城五七番

內科　胃腸病　診察夜九時迄　京城本町一丁目　石川醫院　電話一二三七・九二〇九番

京城本町壹丁目　株式會社百三十銀行京城支店　電話五八番　振替貯金京城一一九四番
資本金五百萬圓　頭取　安田善三郎
銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候　爲換取組先は內地各方面並朝鮮樞要の地有之候

妻あさ葬送の際は御鄭重に御會葬被下御厚情難有奉感謝候恐惶謹言
大正六年五月八日
織居加一
親戚一同

百圓進呈　りん病　ばい毒　讀合 特効藥
淋病藥主藥は治淋劑とし梅毒藥主藥は驅梅內服藥とし醫藥學上最有効と確定し帝國醫科大學病院等に於て常用配劑せる高貴藥なることを保證す若し前述の證言に違へる事を發見せる時は分析料として百圓進呈
▽あらゆる治療を試みるも効なき患者は一度來談あれ
にせ物あり　大阪有田の印を御認めあれ
京城南大門外停車場通　大阪ドラッグ商會朝鮮本部
釜山大廳町二丁目　大阪ドラッグ商會　元山本町三丁目　大阪ドラッグ商會
他の藥店に販賣を不許
京城南大門外停車場通　大阪ドラッグ商會

▲各種萬年筆修繕　振替口座京城三〇〇番　京城日報代理部

大邱浦項間自動車時間
大塚農場自動車所　大邱出張部　電話一一七番

尼崎汽船仁川出帆
群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
○大有丸　五月十三日後四時出帆
○君が代丸　五月　日後四時出帆
○秀吉丸　五月　日後四時出帆
○神代丸　五月十五日後四時出帆
仁川海岸通三丁目　高杉回漕部　電話五十九番

日本郵船仁川出帆
○大連行、太沽（天津）牛莊行
和摂丸　五月廿三日正午出帆
砂河丸　六月三日正午出帆
三河丸　五月十二日正午出帆
仁川海岸町　堀回漕部

阿波共同汽船仁川出帆
○芝罘、大連行（關東都督府命令）
會下山丸　五月十一日午後八時出帆
阿波共同汽船株式會社　本町四丁目（電話一七三番）
仁川代理店　野口商會
元山代理店　田口回漕部
京城取次店　河村運送店

朝鮮郵船出帆
本社　電話長一九五二番二三一番
京城大門驛前　松原運送店
○江原丸　五月十三日　釜山發
○京畿丸　五月廿四日
○黃海丸　五月廿九日
○咸鏡丸　五月十九日　釜山發
○穩城丸　五月九日
○昌平丸　五月　日
○鏡城丸　五月十二日　元山發
○盈德丸　五月十日　釜山發
○江陵丸　○襄陽丸　毎日　浦項發
○三浦丸　五月十二日　釜山發
○濟州丸　○新營丸　毎日　釜山發
○平壤丸　五月十四日　元山發
○順天丸　三日目毎　木浦發
○慶興丸　五月十一日　木浦發
○慶興丸　五月十三日　木浦發
○公州丸　五月十六日　木浦發
○麗水丸　五月十四日　仁川發
○晉州丸　五月十八日　仁川發
○宗信丸　五月十五日　仁川發
○全州丸　○南陽丸　毎日午前　仁川發（江華、橋桐、海州行）

大阪商船仁川出帆
○外航路所屬航路（濟洋航路を除く）同連絡御乘船の時は五分引を以て連絡切符發賣仕候
◎關門、神戸、大阪行
×汕頭丸　五月十四日後二時出帆
須磨丸　五月廿一日後二時出帆
×汕頭丸　五月廿七日後二時出帆
◎南浦、群山、神戸、大阪行
須磨丸　五月八日後二時出帆
◎木浦、釜山、嚴原、神の浦、長崎行
安東丸　五月七日後二時出帆
×安東丸　五月二十日後二時出帆
◎橫濱行
濟州丸　五月廿五日後二時出帆
福州丸　五月卅一日後二時出帆
◎大連直航
濟州丸　五月二十日正午出帆
福州丸　五月廿六日正午出帆
◎鎭南浦行
汕頭丸　五月十一日正午出帆
須磨丸　五月十八日正午出帆
◎西湖津、新浦、城津、淸津行（元山出帆）
安平丸　五月十一日後十二時出帆
◎淸津行（元山出帆）
宮島丸　五月十七日後十二時出帆
◎上海、基隆、打狗行（大連出帆）
基隆丸　六月三日前四時出帆
湖北丸　五月十八日後六時出帆
切符發賣所　大阪商船會社仁川支店
切符發賣所　內國通運會社京城支店
切符發賣所　仁川京城通り　開襟旅館

汽船釜山出帆廣告
門司、神戸、大阪行
○和歌浦丸　五月七日後五時出帆
○立神丸　五月十八日後五時出帆
元山、淸津、浦鹽行
○和歌浦丸　五月十七日後十時出帆
○立神丸　五月六日後四時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、淸津行
○第三琴平丸　月　日後六時出帆
門司、宇品、神戸、大阪行
○第三琴平丸　月　日後六時出帆
佐須奈、嚴原、壹岐、博多行
○天貴丸　毎月二日九日十六日廿三日卅日　午後十時出帆
釜山港埋立新町　本船取扱店　大池回漕部

商況
大阪期米（七日）
二萬九千三百五十石
十六圓九十錢

▲全能く賣る　今後場同店より賣りたる玉數五千餘石に上りたりとの事
▲邑の商內　後場同店より賣りたる玉數四千餘石に上りたりとの事